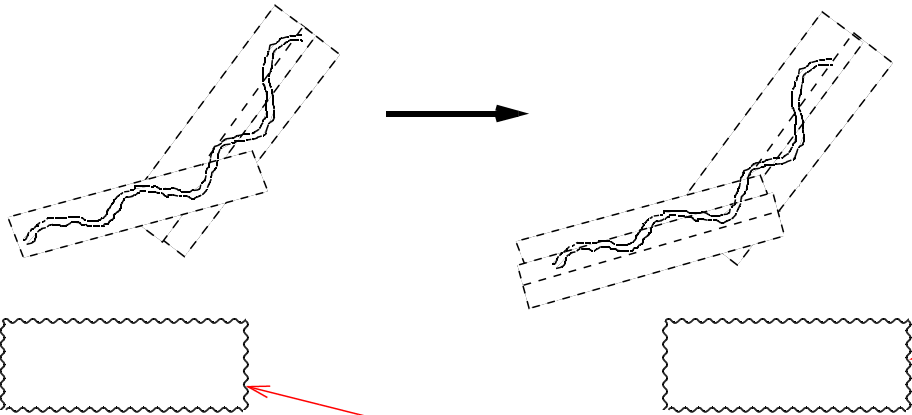


| 改訂内容 | 市場単価方式への移行による一部改訂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-------------------|----------------|----------------|--|------------------|-------------------|-----------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|---|-----|----------------|----------------|--|------------------|-------------------|-----------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-2-3 履行期間の算定 | <p>4) その他 必要内外業期間内に，下記の期間が含まれる場合はその日数を加算するものとする。 年末年始.....12/29～ 1/ 3 6日間 夏期休暇..... 8/14～ 8/16 3日間 その他業務履行上必要な日数については別途加算するものとする。</p> <p>(3) 地質調査業務の履行期間 地質調査業務の履行期間の算定は次式を参考に決定する。なお，履行期間に端数が生じる場合は小数第1位以下切り上げるものとする。また，各必要日数(W)は小数第3位(小数第4位以下切捨て)まで算出するものとする。 $\text{履行期間} = \frac{\text{必要内業日数} \times \text{不稼働係数(内業)}}{(W1)} + \frac{\text{必要外業日数} \times \text{不稼働係数(外業)}}{(W2)} + \text{準備・跡片付け(外業)} + \text{打合せ協議日数} + \text{その他}$</p> <p>1) 必要内業日数(W1)の算出 地質調査業務の内業については，1業務当り20日を標準とする。</p> <p>2) 必要外業日数(W2)の算出 $W2 = Wa + Wb + Wc + Wd$ 機械ボーリング $Wa = \left(\frac{1 \text{ 箇所当りボーリング長}}{1 \text{ 日当り標準能率}} \times \text{補正率} \right)$ サンプリング $Wb = \text{サンプリング機械の損料日数} \times \text{試料数}$ サウンディング及び原位置試験 $Wc = \left(\frac{\text{設計作業量}}{1 \text{ 日当り作業量}} \right)$ 足場据付・解体日数 $Wd = \text{必要箇所} / 1 \text{ 日当り作業量}$</p> <p>3) 不稼働係数 不稼働係数は，外業，内業それぞれの係数を用いるものとする。</p> <p>4) 準備・跡片付け(外業) 準備・後片付け日数については，10日程度を標準とする。</p> <p>5) その他 必要内外業期間内に，下記の期間が含まれる場合は加算するものとする。 年末年始.....12/29～ 1/ 3 6日間 夏期休暇..... 8/14～ 8/16 3日間 その他の業務履行上必要な日数については別途加算するものとする。</p> <p>(4) 設計業務等の履行期間 設計業務等の履行期間の算定は下記の表を参考に決定する。 (単位：日)</p> <table border="1" data-bbox="371 1575 1276 1837"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>業務価格が3千万円未満の場合</th> <th>業務価格が3千万円以上の場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路橋設計等 道路設計等 トンネル及びトンネル設備の調査・設計等 河川構造物の調査・設計等</td> <td>Y 1 = 0.04X + 50</td> <td>Y 2 = 0.01X + 140</td> </tr> <tr> <td>河川の調査・計画等</td> <td>Y 3 = 1.3Y 1</td> <td>Y 4 = 1.3Y 2</td> </tr> <tr> <td>砂防関連の調査・計画・設計</td> <td>Y 5 = 1.4Y 1</td> <td>Y 6 = 1.4Y 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. Xは業務価格(単位：万円)とする。</p> | 工 種 | 業務価格が3千万円未満の場合 | 業務価格が3千万円以上の場合 | 道路橋設計等 道路設計等 トンネル及びトンネル設備の調査・設計等 河川構造物の調査・設計等 | Y 1 = 0.04X + 50 | Y 2 = 0.01X + 140 | 河川の調査・計画等 | Y 3 = 1.3Y 1 | Y 4 = 1.3Y 2 | 砂防関連の調査・計画・設計 | Y 5 = 1.4Y 1 | Y 6 = 1.4Y 2 | <p>4) その他 必要内外業期間内に，下記の期間が含まれる場合はその日数を加算するものとする。 年末年始.....12/29～ 1/ 3 6日間 夏期休暇..... 8/14～ 8/16 3日間 その他業務履行上必要な日数については別途加算するものとする。</p> <p>(3) 地質調査業務の履行期間 地質調査業務の履行期間の算定は次式を参考に決定する。なお，履行期間に端数が生じる場合は小数第1位以下切り上げるものとする。また，各必要日数(W)は小数第3位(小数第4位以下切捨て)まで算出するものとする。 $\text{履行期間} = \frac{\text{必要内業日数} \times \text{不稼働係数(内業)}}{(W1)} + \frac{\text{必要外業日数} \times \text{不稼働係数(外業)}}{(W2)} + \text{準備・跡片付け(外業)} + \text{打合せ協議日数} + \text{その他}$</p> <p>1) 必要内業日数(W1)の算出 地質調査業務の内業については，1業務当り20日を標準とする。</p> <p>2) 必要外業日数(W2)の算出 $W2 = Wa + Wb + Wc + Wd$ 機械ボーリング $Wa = \left(\frac{1 \text{ 箇所当りボーリング長}}{1 \text{ 日当り標準能率}} \right)$ サンプリング $Wb = \text{サンプリング機械の損料日数} \times \text{試料数}$ サウンディング及び原位置試験 $Wc = \left(\frac{\text{設計作業量}}{1 \text{ 日当り作業量}} \right)$ 足場据付・解体日数 $Wd = \text{必要箇所} / 1 \text{ 日当り作業量}$</p> <p>3) 不稼働係数 不稼働係数は，外業，内業それぞれの係数を用いるものとする。</p> <p>4) 準備・跡片付け(外業) 準備・後片付け日数については，10日程度を標準とする。</p> <p>5) その他 必要内外業期間内に，下記の期間が含まれる場合は加算するものとする。 年末年始.....12/29～ 1/ 3 6日間 夏期休暇..... 8/14～ 8/16 3日間 その他の業務履行上必要な日数については別途加算するものとする。</p> <p>(4) 設計業務等の履行期間 設計業務等の履行期間の算定は下記の表を参考に決定する。 (単位：日)</p> <table border="1" data-bbox="1662 1575 2567 1837"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>業務価格が3千万円未満の場合</th> <th>業務価格が3千万円以上の場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路橋設計等 道路設計等 トンネル及びトンネル設備の調査・設計等 河川構造物の調査・設計等</td> <td>Y 1 = 0.04X + 50</td> <td>Y 2 = 0.01X + 140</td> </tr> <tr> <td>河川の調査・計画等</td> <td>Y 3 = 1.3Y 1</td> <td>Y 4 = 1.3Y 2</td> </tr> <tr> <td>砂防関連の調査・計画・設計</td> <td>Y 5 = 1.4Y 1</td> <td>Y 6 = 1.4Y 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. Xは業務価格(単位：万円)とする。</p> | 工 種 | 業務価格が3千万円未満の場合 | 業務価格が3千万円以上の場合 | 道路橋設計等 道路設計等 トンネル及びトンネル設備の調査・設計等 河川構造物の調査・設計等 | Y 1 = 0.04X + 50 | Y 2 = 0.01X + 140 | 河川の調査・計画等 | Y 3 = 1.3Y 1 | Y 4 = 1.3Y 2 | 砂防関連の調査・計画・設計 | Y 5 = 1.4Y 1 | Y 6 = 1.4Y 2 | 削除 |
| 工 種 | 業務価格が3千万円未満の場合 | 業務価格が3千万円以上の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道路橋設計等 道路設計等 トンネル及びトンネル設備の調査・設計等 河川構造物の調査・設計等 | Y 1 = 0.04X + 50 | Y 2 = 0.01X + 140 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河川の調査・計画等 | Y 3 = 1.3Y 1 | Y 4 = 1.3Y 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 砂防関連の調査・計画・設計 | Y 5 = 1.4Y 1 | Y 6 = 1.4Y 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 種 | 業務価格が3千万円未満の場合 | 業務価格が3千万円以上の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道路橋設計等 道路設計等 トンネル及びトンネル設備の調査・設計等 河川構造物の調査・設計等 | Y 1 = 0.04X + 50 | Y 2 = 0.01X + 140 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河川の調査・計画等 | Y 3 = 1.3Y 1 | Y 4 = 1.3Y 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 砂防関連の調査・計画・設計 | Y 5 = 1.4Y 1 | Y 6 = 1.4Y 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

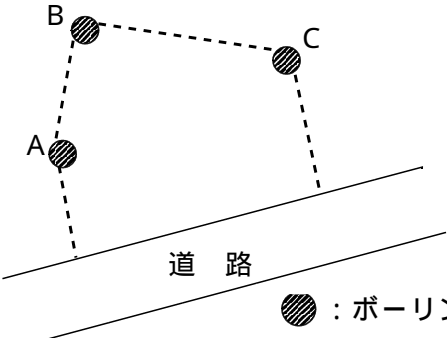
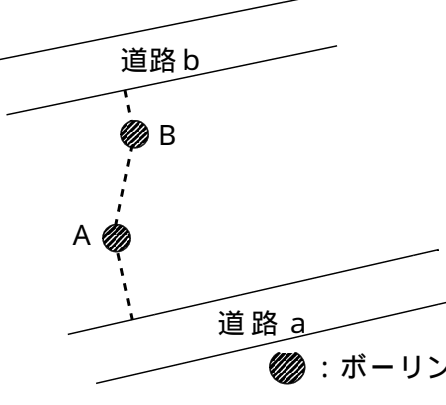
| 改訂内容 | 燃料消費率の改正による一部改訂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|-----|-----|-----|-----|----------|-----|-----|------|-------|---|--|--|--|----------|-----|------------|---|--|--|--|----------|---|---|---|---|--|--|---------|-------------------|-----------|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-2-4 1-3 旅費交通費の算定 | <p>2. 5千万円を超える場合または上表によりがたい場合は別途考慮するものとする。 3. 河川協議, 警察協議, 地元協議等が必要な場合はその期間を別途加算する。 4. 測量, 地質調査, 地下埋設物調査, 交通量調査等を含む場合は, その期間を別途加算する。 5. 履行期間内に下記の年末年始, 夏期休暇が含まれる場合は, 別途加算する。 年末年始.....12/29~ 1/ 3 6日間 夏期休暇..... 8/14~ 8/16 3日間 6. 準備, 印刷製本及び設計歩掛に含まれる現地踏査に要する期間を含んでいる。 7. 同一設計業務等に各工種が混在する場合は, その支配的な工種の履行期間の算定式を用いるものとする。支配的な工種とは, 直接人件費の最も大きい工種とする。 8. 履行期間に端数が生じる場合は, 小数第1位以下切り上げるものとする。 9. プロポーザル方式による業務の履行期間については別途考慮するものとする。 10. 業務内容に変更等があった場合は、履行期間についても変更内容等を勘案し見直すことができるものとする。</p> <p>1-3 旅費交通費 1-3-1 通勤及び宿泊の区分 (1) 通勤により業務を行う場合 通勤により業務を行えるかどうかの判断は下記を目安とする。ここでいう積算上の基地とは、原則として指名業者のうち、現地に最も近い本支店等が所在する市役所等とする。なお、随意契約の場合は当該業者が所在する市役所等とする。 また、現地で作業を伴う業務は連絡車(ライトバン)運転, その他の業務については公共交通機関を利用するものとして積算することを標準とする。 1) 積算上の基地から現地まで、連絡車(ライトバン)運転によるものとして積算する場合は、積算上の基地から現地までの片道距離が30km程度(高速道路等を利用する場合は片道距離60km程度)もしくは片道所要時間1時間程度とする。 なお、測量業務においては、連絡車(ライトバン)運転費は測量業務標準歩掛の機械経費率等に含まれているため、別途計上しない。</p> <table border="1" data-bbox="391 1150 1406 1346"> <caption>連絡車(ライトバン)運転費 1日当り単価表</caption> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>単 価</th> <th>金 額</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガソリン</td> <td>レギュラー</td> <td>ℓ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.9ℓ/h×h</td> </tr> <tr> <td>損 料</td> <td>ライトバン 1.5L</td> <td>h</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>運転時間当り損料</td> </tr> <tr> <td>"</td> <td>"</td> <td>日</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>供用日当り損料</td> </tr> </tbody> </table> <p>連絡車(ライトバン)運転費には、運転労務費は計上しない。 また、高速道路等の料金は別途計上すること。 2) 空中写真測量の場合は、撮影士及び撮影助手の往復交通費は、本拠飛行場から本拠飛行場に最も近い本支店等が所在する市役所までとする。尚、操縦士及び整備士の往復交通費については計上しない</p> <p>(2) 現地に滞在して業務を行う場合 上記(1)の範囲を超え、現地に滞在して業務を実施する必要がある場合は、各所管の「旅費取扱規則」及び「日額旅費支給規則」によるものとする。 なお、測量業務においては、滞在地から現地までのライトバン運転費は、測量標準歩掛の機械経費率等に含まれているため、別途計上しない。</p> <p>1-3-2 旅費交通費の扱い (1) 旅費交通費の算定において、日額旅費については積算上、計上しないものとする。 (2) 鉄道運賃等 1) 鉄道運賃等については、その乗車に要する運賃を計上する。 2) 複数の路線がある場合は、安い方の運賃を計上する。 3) 特急料金等については、下記により計上するものとする。</p> | 名 称 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 単 価 | 金 額 | 摘 要 | ガソリン | レギュラー | ℓ | | | | 2.9ℓ/h×h | 損 料 | ライトバン 1.5L | h | | | | 運転時間当り損料 | " | " | 日 | 1 | | | 供用日当り損料 | <p>→ 2.6ℓ/h×h</p> | <p>訂正</p> |
| 名 称 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 単 価 | 金 額 | 摘 要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガソリン | レギュラー | ℓ | | | | 2.9ℓ/h×h | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 損 料 | ライトバン 1.5L | h | | | | 運転時間当り損料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| " | " | 日 | 1 | | | 供用日当り損料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

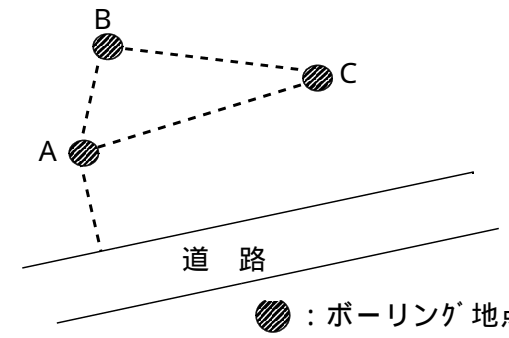



| 改訂内容 | 運用方針の明確化による一部改訂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|-----------|-------|---------|---|-----|-----------|---|-----|-----------|---|-----|-----------|---|-----|-----------|---|-----|-------|---------|--------------|-----|-----------|---------------|-----|-----------|--------------|-----|-----------|-------------|-----|-----------|----------|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-2-9 | <p>1 - 9 技術経費率の運用</p> <p>(1) 技術経費率の異なる工種が混在する場合は、その業務の支配的な工種の技術経費率を採用する。支配的な工種とは、技術経費率の対象額が最も多い工種とする。</p> <table border="1" data-bbox="442 621 1003 806"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>技術経費率</th> <th>対 象 金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>20%</td> <td>2,000,000</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>30%</td> <td>1,100,000</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>40%</td> <td>3,600,000</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>30%</td> <td>3,100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>同一技術経費率のB, Dの合計額が最大となるので、技術経費率は30%とする。</p> <p>(2) 類似構造物については、基本となる構造物と同じ技術経費率を用いる。</p> <p>(3) 変更設計の場合の技術経費率は、当初設計に用いた技術経費率とする。</p> <p>(4) 主任技術者を計上する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 技術経費率40%を適用する設計業務等については、主任技術者(A)を計上する。 技術経費率40%を超え60%以下の率を適用する設計業務等については、主任技術者(B)を計上する。 <p>(5) 技術経費率60%を適用する場合 技術経費率60%を適用する設計業務等は、業務内容が技術的に極めて高度であり、かつ複雑困難なものである場合で、シンクタンク等に委託するものとする。</p> <p>(6) 技術経費率40%を超える場合の運用 業務の技術的難易度が異なるものが混在している場合は、単に支配的な工種の技術経費率とはせず、それぞれの技術的難易度を総合的に勘案して、当該業務の技術経費率を定めるものとする。ただし、技術経費率は、10%単位とする。</p> <p>1 - 10 設計変更の積算方法 業務委託の変更は、官積算書を基にして次式により算出する。</p> $\text{業務価格 (落札率を乗じた額)} = \text{変更官積算業務価格} \times \frac{\text{直前の請負額}}{\text{直前の官積算額}}$ $\text{変更業務委託料} = \text{業務価格 (落札率を乗じた額)} \times (1 + \text{消費税率})$ <p>注) 1. 変更官積算業務価格は、官単位、官経費をもとに当初設計と同一方法により積算する。 2. 直前の請負額、直前の官積算額は、消費税相当額を含んだ額とする。</p> | 工 種 | 技術経費率 | 対 象 金 額 | A | 20% | 2,000,000 | B | 30% | 1,100,000 | C | 40% | 3,600,000 | D | 30% | 3,100,000 | <p>1 - 9 技術経費率の運用</p> <p>(1) 技術経費率の異なる工種が混在する場合は、その業務の支配的な工種の技術経費率を採用する。支配的な工種とは、技術経費率の対象額が最も多い工種とする。</p> <p>なお、<u>測量業務(測量調査費)、地質調査業務(解析等調査業務)及び設計業務等を合併して積算し発注する場合も、その業務の支配的な工種の技術経費率を採用するものとする。</u></p> <p><例></p> <table border="1" data-bbox="1694 621 2398 806"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>技術経費率</th> <th>対 象 金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (地質：解析等調査)</td> <td>30%</td> <td>1,100,000</td> </tr> <tr> <td>B (設計：連続箱桁PC)</td> <td>40%</td> <td>3,600,000</td> </tr> <tr> <td>C (設計：重力式橋台)</td> <td>20%</td> <td>2,000,000</td> </tr> <tr> <td>D (設計：場所打杭)</td> <td>30%</td> <td>3,100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>同一技術経費率のA, Dの合計額が最大となるので、技術経費率は30%とする。</p> <p>(2) 類似構造物については、基本となる構造物と同じ技術経費率を用いる。</p> <p>(3) 変更設計の場合の技術経費率は、当初設計に用いた技術経費率とする。</p> <p>(4) 主任技術者を計上する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 技術経費率40%を適用する設計業務等については、主任技術者(A)を計上する。 技術経費率40%を超え60%以下の率を適用する設計業務等については、主任技術者(B)を計上する。 <p>(5) 技術経費率60%を適用する場合 技術経費率60%を適用する設計業務等は、業務内容が技術的に極めて高度であり、かつ複雑困難なものである場合で、シンクタンク等に委託するものとする。</p> <p>(6) 技術経費率40%を超える場合の運用 業務の技術的難易度が異なるものが混在している場合は、単に支配的な工種の技術経費率とはせず、それぞれの技術的難易度を総合的に勘案して、当該業務の技術経費率を定めるものとする。ただし、技術経費率は、10%単位とする。</p> <p>1 - 10 設計変更の積算方法 業務委託の変更は、官積算書を基にして次式により算出する。</p> $\text{業務価格 (落札率を乗じた額)} = \text{変更官積算業務価格} \times \frac{\text{直前の請負額}}{\text{直前の官積算額}}$ $\text{変更業務委託料} = \text{業務価格 (落札率を乗じた額)} \times (1 + \text{消費税率})$ <p>注) 1. 変更官積算業務価格は、官単位、官経費をもとに当初設計と同一方法により積算する。 2. 直前の請負額、直前の官積算額は、消費税相当額を含んだ額とする。</p> | 工 種 | 技術経費率 | 対 象 金 額 | A (地質：解析等調査) | 30% | 1,100,000 | B (設計：連続箱桁PC) | 40% | 3,600,000 | C (設計：重力式橋台) | 20% | 2,000,000 | D (設計：場所打杭) | 30% | 3,100,000 | 追加 訂正 |
| 工 種 | 技術経費率 | 対 象 金 額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 20% | 2,000,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | 30% | 1,100,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C | 40% | 3,600,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D | 30% | 3,100,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 種 | 技術経費率 | 対 象 金 額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A (地質：解析等調査) | 30% | 1,100,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B (設計：連続箱桁PC) | 40% | 3,600,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C (設計：重力式橋台) | 20% | 2,000,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D (設計：場所打杭) | 30% | 3,100,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------|---|---|----|
| 改訂内容 | 応用測量関係の成果検定対象追加 | | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 2-1-1 | <p>第2編 測量業務</p> <p>第1章 測量業務積算基準</p> <p>第1節 測量業務積算基準</p> <p>1-1 成果検定</p> <p>1-1-1 成果検定の対象</p> <p>(1) 基本測量(全ての測量の基礎となる測量で、国土地理院が行うものをいう) 基本測量は全ての測量の基礎となるものであり、高精度を要し、かつ利用度の高いものであるため、原則として全ての基本測量を成果検定の対象とする。</p> <p>(2) 公共測量(地方整備局等が行う測量) 公共測量作業規程で、精度を要すると規定されている測量、後続の測量の基準となる測量、及び成果の重要性を勘案して地図作成(修正・写真図・数値地図を含む。)、空中写真撮影、一定距離以上の縦断測量を成果検定対象の基準とする。</p> <p>1) 基準点測量関係</p> <p>1級基準点測量 全てを検定の対象とする。</p> <p>2級基準点測量 全てを検定の対象とする。</p> <p>3級基準点測量 下記3項目のうちの一つに該当する場合を検定の対象とする。 ・永久標識及びそれに準ずる標識を設置する場合 ・4級基準点測量の基準となる場合 ・縮尺1/500地図作成のための標定点測量の基準となる場合。</p> <p>4級基準点測量 下記2項目のうちの一つに該当する場合を検定の対象とする。 ・永久標識及びそれに準ずる標識を設置する場合 ・縮尺1/1000以上の地図作成のための標定点測量の基準となる場合</p> <p>2) 水準測量関係</p> <p>1級水準測量 全てを検定の対象とする。</p> <p>2級水準測量 全てを検定の対象とする。</p> <p>3級水準測量 下記2項目のうちの一つに該当する場合を検定の対象とする。 ・永久標識及びそれに準ずる標識を設置する場合 ・図化のための簡易水準測量の基準を与える幹線測量となる場合</p> <p>3) 撮影関係 撮影面積にかかわらず検定の対象とする。なお、空中写真については、撮影後速やかに検定を受けるものとする。</p> <p>4) 地図作成関係 航測で作成した地図(修正を含む)・写真図については、面積・縮尺にかかわらず検定の対象とする。</p> <p>5) 応用測量関係 路線測量・河川測量において実施される縦断測量で3kmを超えるものを検定の対象とする。</p> <p>6) 数値地図作成関係 TS地形測量・デジタルマッピング・既成図数値化・数値地形図修正で作成した数値地形図・数値地形図データファイルについては、面積・縮尺にかかわらず検定の対象とする。</p> | <p>なお、縦断測量(仮BM設置測量・水準基標測量を含む)は、主に水準測量により行われていることから、検定料金が示されていない場合は、該当する水準測量の検定料金を適用することが出来るものとする。</p> | 追加 |

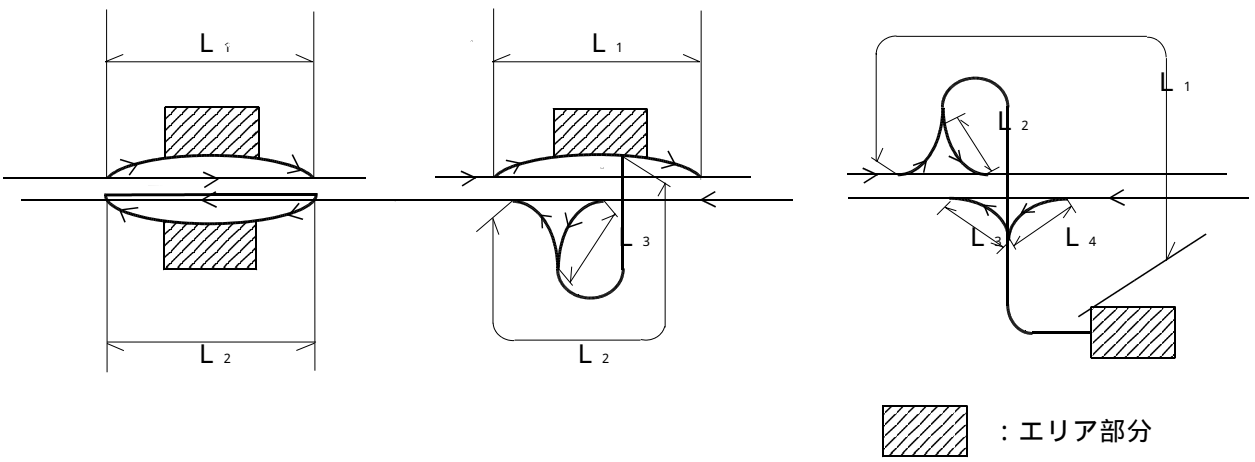
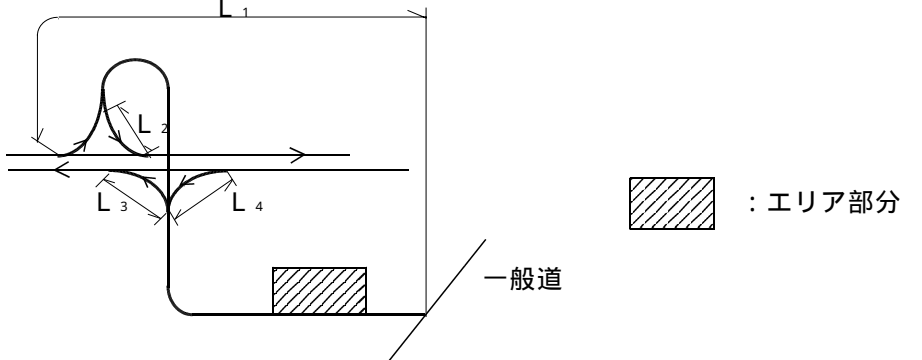
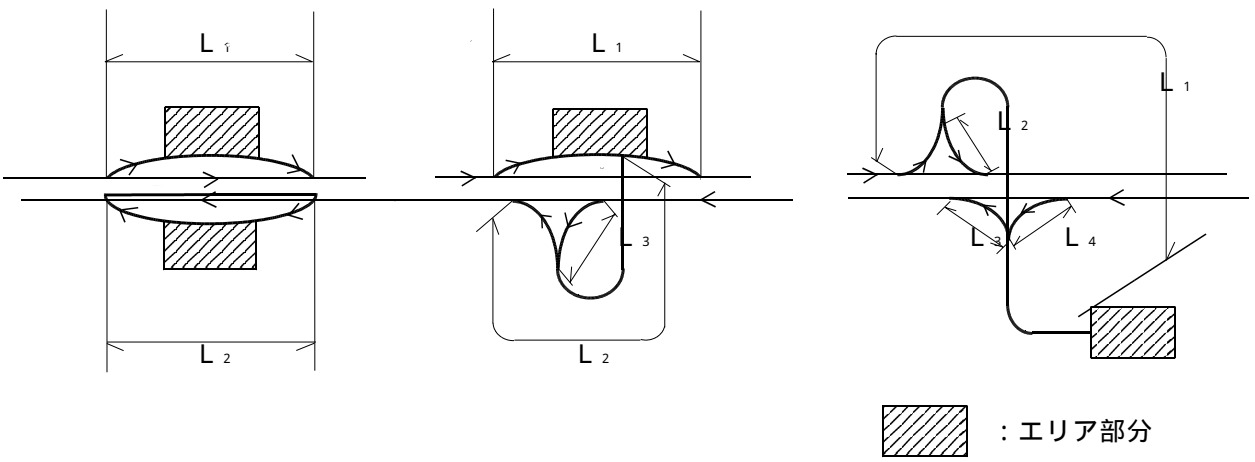
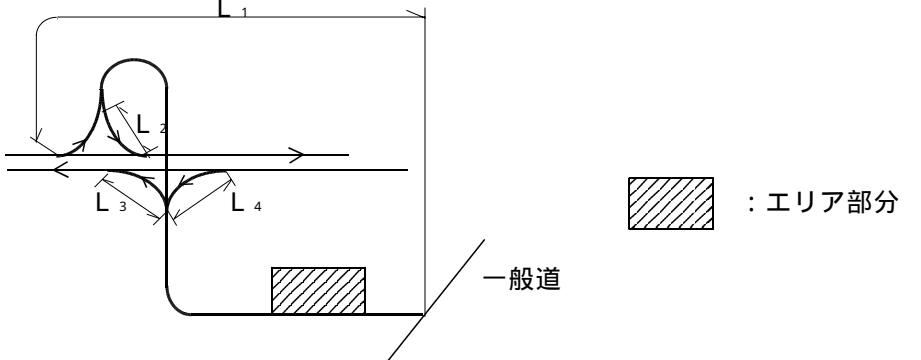
| 改訂内容 | 図についてコース数とコース方向数の追加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|------|-----------|-----------------|--|-------------|---------------------------|-----|------|----|-------|--------|-----|-------|-----|-----------|---------------|-----|------|-----|---------|-----------|-----|------|------|---------|-----------------|---|---|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-2-25 |  <p data-bbox="474 840 652 871">図 2 - 5 - 1 1</p> <p data-bbox="326 892 1484 955">横方向のコースは、左図のように1コースでも良いようであるが、余裕を持たせて、両方とも復コースとして計画した。また、完全に覆うようにS.Lを20%とした。</p> <p data-bbox="237 966 623 997">5 - 3 - 3 航空カメラとレンズ</p> <p data-bbox="237 997 1246 1029">(1) 現在、日本で使われている測量用航空カメラは、表 2 - 5 - 2 のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="326 1060 1246 1176"> <caption data-bbox="549 1060 1023 1092">表 2 - 5 - 2 測量用航空カメラの種類</caption> <thead> <tr> <th>会社名</th> <th>カメラ名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ツァイス社(ドイツ)</td> <td>RMK 15/23, RMK 21/18, RMK-A 15/23, RMK-A 21/18</td> </tr> <tr> <td>ライカ社(元ウルト社)</td> <td>RC-8, RC-10, RC-20, RC-30</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="237 1239 1484 1302">(2) これらのカメラは、表 2 - 5 - 3 のとおり写角により広角と普通角に分けられる。超広角と呼ばれるカメラもあるが、日本ではあまり使われていない。</p> <table border="1" data-bbox="326 1354 1216 1501"> <caption data-bbox="549 1354 1009 1386">表 2 - 5 - 3 測量用航空カメラの諸元</caption> <thead> <tr> <th>カメラ</th> <th>焦点距離</th> <th>写角</th> <th>画面サイズ</th> <th>主な使用対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通角</td> <td>21 cm</td> <td>62°</td> <td>18 × 18cm</td> <td>山地の調査, 高層ビル街等</td> </tr> <tr> <td>広 角</td> <td>15.3</td> <td>90°</td> <td>23 × 23</td> <td>一般の測量・調査用</td> </tr> <tr> <td>超広角</td> <td>8.85</td> <td>120°</td> <td>23 × 23</td> <td>開発地域の1/50,000図等</td> </tr> </tbody> </table> | 会社名 | カメラ名称 | ツァイス社(ドイツ) | RMK 15/23, RMK 21/18, RMK-A 15/23, RMK-A 21/18 | ライカ社(元ウルト社) | RC-8, RC-10, RC-20, RC-30 | カメラ | 焦点距離 | 写角 | 画面サイズ | 主な使用対象 | 普通角 | 21 cm | 62° | 18 × 18cm | 山地の調査, 高層ビル街等 | 広 角 | 15.3 | 90° | 23 × 23 | 一般の測量・調査用 | 超広角 | 8.85 | 120° | 23 × 23 | 開発地域の1/50,000図等 | <div data-bbox="1513 609 1736 777" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> コース数 4 コース方向数 2 </div> <div data-bbox="1513 703 1736 777" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> コース数 3 コース方向数 2 </div> <div data-bbox="1513 840 1751 871" style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 路線撮影計画例2 </div> | <p data-bbox="2789 619 2875 651">追加</p> <p data-bbox="2789 703 2875 735">追加</p> <p data-bbox="2789 840 2875 871">追加</p> |
| 会社名 | カメラ名称 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ツァイス社(ドイツ) | RMK 15/23, RMK 21/18, RMK-A 15/23, RMK-A 21/18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ライカ社(元ウルト社) | RC-8, RC-10, RC-20, RC-30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カメラ | 焦点距離 | 写角 | 画面サイズ | 主な使用対象 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 普通角 | 21 cm | 62° | 18 × 18cm | 山地の調査, 高層ビル街等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 広 角 | 15.3 | 90° | 23 × 23 | 一般の測量・調査用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 超広角 | 8.85 | 120° | 23 × 23 | 開発地域の1/50,000図等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

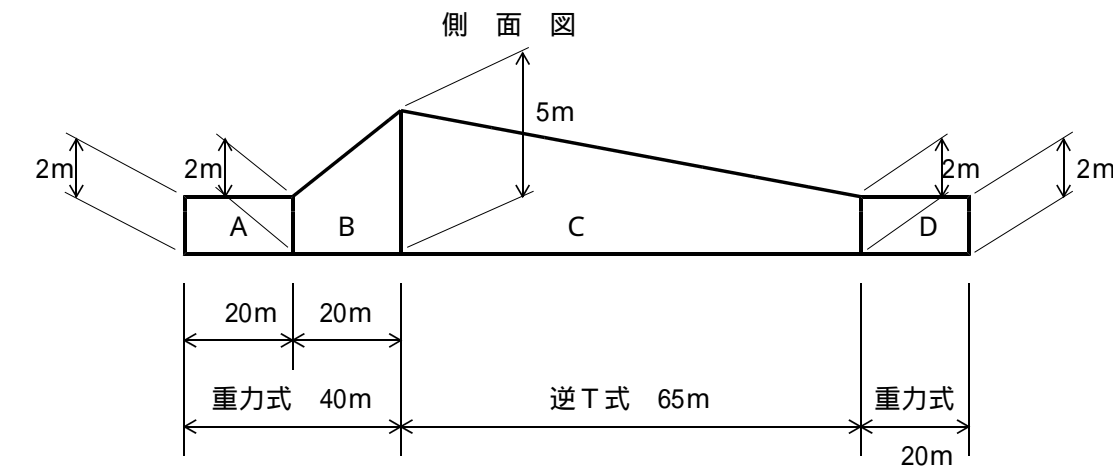
| 改訂内容 | 字句訂正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|--------------------------|--------------|-----|----|----|--|----|----|--------------------------|-----|-----|--|----|----|--|----|-----|--|-----|-----|--|---|-----|--------------|-----|----|----|--|----|----|--------------------------|-----|-----|--|----|----|--|----|-----|--|-----|-----|--|--|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-1 3-1-2 3-1-3 3-2-3 | <h3>3編 地質調査業務</h3> <h4>第1章 地質調査積算基準</h4> <h5>第1節 地質調査積算基準</h5> <h6>1-1 適用範囲</h6> <p>1-1-1 施工単価が適用できる地質調査 機械ボーリング サンプルング サウンディング及び原位置試験 現場内小運搬 足場仮設 その他間接調査費 解析等調査業務</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1-1-2 施工単価が適用できない地質調査 弾性波探査（スタッング法・発破法） 軟弱地盤技術解析 地すべり調査 印刷製本費</p> </div> <h6>1-1-2 施工単価が適用できない地質調査</h6> <p>弾性波探査（スタッング法・発破法） 軟弱地盤技術解析 地すべり調査 印刷製本費</p> <h6>1-1 地質調査業務の構成</h6> <h6>1-2 地質調査の目的と方法</h6> <h6>1-3 地質調査相互関連図</h6> <h6>1-1-4 その他</h6> <p>(1) 岩分類に対する施工単価のボーリング規格 岩分類に対する施工単価のボーリング規格は下表を標準とする。</p> <table border="1" data-bbox="400 1218 1291 1417"> <thead> <tr> <th>岩分類</th> <th>施工単価のボーリング規格</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軟岩</td> <td>軟岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軟岩</td> <td>軟岩</td> <td>ダイヤモンドビットが必要な場合は、中硬岩を使用。</td> </tr> <tr> <td>中硬岩</td> <td>中硬岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>硬岩</td> <td>硬岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>硬岩</td> <td>極硬岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>破碎帯</td> <td>破碎帯</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ボーリング（試錐）等においては、原則として既存資料の収集・現地調査、資料整理とりまとめ断面図等の作成、総合解析とりまとめ、協議打合せを計上するものとする。 (3) 施工単価については、物価資料（「建設物価」、「積算資料」をいう）によるものとする。なお、現場内小運搬における機械器具損料及び解析等調査業務に係る施工単価は別途通知する。 (4) 施工単価については、夜間作業は別途考慮とする。 (5) 室内土質試験等は、物価資料を参考にして積算するものとし、直接調査費に計上する。</p> | 岩分類 | 施工単価のボーリング規格 | 備 考 | 軟岩 | 軟岩 | | 軟岩 | 軟岩 | ダイヤモンドビットが必要な場合は、中硬岩を使用。 | 中硬岩 | 中硬岩 | | 硬岩 | 硬岩 | | 硬岩 | 極硬岩 | | 破碎帯 | 破碎帯 | | <h3>第3編 地質調査業務</h3> <h4>第1章 地質調査積算基準</h4> <h5>第1節 地質調査積算基準</h5> <h6>1-1 適用範囲</h6> <p>1-1-1 市場単価が適用できる地質調査 機械ボーリング サンプルング サウンディング及び原位置試験 現場内小運搬 機械器具損料を除く 足場仮設 その他間接調査費</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1-1-2 施工単価が適用できる地質調査 現場内小運搬における機械器具損料 解析等調査業務</p> </div> <p>1-1-3 市場単価及び施工単価が適用できない地質調査 弾性波探査（スタッング法・発破法） 軟弱地盤技術解析 地すべり調査 印刷製本費</p> <h6>1-2 地質調査業務の構成</h6> <h6>1-3 地質調査の目的と方法</h6> <h6>1-4 地質調査相互関連図</h6> <h6>1-1-4 その他</h6> <p>(1) 岩分類に対する市場単価のボーリング規格 岩分類に対する市場単価のボーリング規格は下表を標準とする。</p> <table border="1" data-bbox="1691 1218 2582 1417"> <thead> <tr> <th>岩分類</th> <th>施工単価のボーリング規格</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軟岩</td> <td>軟岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軟岩</td> <td>軟岩</td> <td>ダイヤモンドビットが必要な場合は、中硬岩を使用。</td> </tr> <tr> <td>中硬岩</td> <td>中硬岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>硬岩</td> <td>硬岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>硬岩</td> <td>極硬岩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>破碎帯</td> <td>破碎帯</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ボーリング（試錐）等においては、原則として既存資料の収集・現地調査、資料整理とりまとめ断面図等の作成、総合解析とりまとめ、協議打合せを計上するものとする。 (3) 市場単価については、物価資料（「建設物価」、「積算資料」をいう）によるものとする。なお、現場内小運搬における機械器具損料及び解析等調査業務に係る施工単価は別途通知する。 (4) 市場単価については、夜間作業は別途考慮とする。 (5) 室内土質試験等は、物価資料を参考にして積算するものとし、直接調査費に計上する。</p> | 岩分類 | 施工単価のボーリング規格 | 備 考 | 軟岩 | 軟岩 | | 軟岩 | 軟岩 | ダイヤモンドビットが必要な場合は、中硬岩を使用。 | 中硬岩 | 中硬岩 | | 硬岩 | 硬岩 | | 硬岩 | 極硬岩 | | 破碎帯 | 破碎帯 | | 訂正 追加 追加 訂正 訂正 訂正 訂正 訂正 訂正 |
| 岩分類 | 施工単価のボーリング規格 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟岩 | 軟岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟岩 | 軟岩 | ダイヤモンドビットが必要な場合は、中硬岩を使用。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中硬岩 | 中硬岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硬岩 | 硬岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硬岩 | 極硬岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 破碎帯 | 破碎帯 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岩分類 | 施工単価のボーリング規格 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟岩 | 軟岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軟岩 | 軟岩 | ダイヤモンドビットが必要な場合は、中硬岩を使用。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中硬岩 | 中硬岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硬岩 | 硬岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硬岩 | 極硬岩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 破碎帯 | 破碎帯 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 改訂内容 | 新規追加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|-----|------|---------|-------|-----------|-------|------------------------|---------|---------------------------|---------|-----------|-------|--|-----|------|---------|-------|-----------|-------|------------------------|---------|---------------------------|---------|-----------|-------|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-2-4 | <p>2) 足場材料等(仮囲い以外は平坦地足場の重量分を差し引いた重量)</p> <table border="1" data-bbox="510 443 878 831"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>標準重量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湿 地 足 場</td> <td>950kg</td> </tr> <tr> <td>傾 斜 地 足 場</td> <td>900kg</td> </tr> <tr> <td>水 上 足 場 (水深 1 m 未満)</td> <td>1,500kg</td> </tr> <tr> <td>水上足場(水深 1 m 以上 3 m 未満)</td> <td>1,950kg</td> </tr> <tr> <td>環境保全(仮囲い)</td> <td>250kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 傾斜地足場の重量は、垂直ボーリングで深度80m以下、地形傾斜15°～30°を標準としており、これ以外のケースは別途とする。 2. モノレール運搬、索道運搬を行う場合の機材は別途とする。 3. 配管給水を行う場合の機材は別途とする。</p> | 区 分 | 標準重量 | 湿 地 足 場 | 950kg | 傾 斜 地 足 場 | 900kg | 水 上 足 場 (水深 1 m 未満) | 1,500kg | 水上足場(水深 1 m 以上 3 m 未満) | 1,950kg | 環境保全(仮囲い) | 250kg | <p>2) 足場材料等(仮囲い以外は平坦地足場の重量分を差し引いた重量)</p> <table border="1" data-bbox="1792 443 2160 831"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>標準重量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湿 地 足 場</td> <td>950kg</td> </tr> <tr> <td>傾 斜 地 足 場</td> <td>900kg</td> </tr> <tr> <td>水 上 足 場 (水深 1 m 未満)</td> <td>1,500kg</td> </tr> <tr> <td>水上足場(水深 1 m 以上 3 m 未満)</td> <td>1,950kg</td> </tr> <tr> <td>環境保全(仮囲い)</td> <td>250kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 傾斜地足場の重量は、垂直ボーリングで深度80m以下、地形傾斜15°～30°を標準としており、これ以外のケースは別途とする。 2. モノレール運搬、索道運搬を行う場合の機材は別途とする。 3. 配管給水を行う場合の機材は別途とする。</p> <p>(4) 総運搬距離及び設置距離について 1) 人肩運搬及び特装車運搬の総運搬距離積算例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1626 1129 2202 1564"> <p>例 1</p>  <p>● : ボーリング地点</p> <p>総運搬距離 = + + +</p> </div> <div data-bbox="2172 1129 2748 1633"> <p>例 2</p>  <p>● : ボーリング地点</p> <p>道路 a から道路 b へ出る場合 総運搬距離 = + +</p> <p>道路 a から道路 a へ戻る場合 総運搬距離 = + + +</p> </div> </div> | 区 分 | 標準重量 | 湿 地 足 場 | 950kg | 傾 斜 地 足 場 | 900kg | 水 上 足 場 (水深 1 m 未満) | 1,500kg | 水上足場(水深 1 m 以上 3 m 未満) | 1,950kg | 環境保全(仮囲い) | 250kg | 追加 |
| 区 分 | 標準重量 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 湿 地 足 場 | 950kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 傾 斜 地 足 場 | 900kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 上 足 場 (水深 1 m 未満) | 1,500kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水上足場(水深 1 m 以上 3 m 未満) | 1,950kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境保全(仮囲い) | 250kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 標準重量 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 湿 地 足 場 | 950kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 傾 斜 地 足 場 | 900kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 上 足 場 (水深 1 m 未満) | 1,500kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水上足場(水深 1 m 以上 3 m 未満) | 1,950kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境保全(仮囲い) | 250kg | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 改訂内容 | 新規追加 | | |
|----------|------|--|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 3-2-4 | | <p>2) モノレール運搬設置距離・設置箇所計算例</p>  <p>● : ボーリング地点</p> <p>case 1 設置距離 = + + 設置箇所数 = 1箇所</p> <p>case 2 設置距離 = + + 設置箇所数 = 2箇所</p> <p>なお、積算に当たっては経済比較により安価な方を採用すること。</p> | 追加 |
| 3-2-4 | | <p>(5) 補正係数の設定について 1) 標高差の考え方</p> <p>例 1</p>  <p>例 2</p>  <p>例 3</p>  <p>● : ボーリング地点</p> <p>人肩運搬もしくは特装車で現場内小運搬を行う場合の「換算距離」における標高差は、図に示すとおり基準面からの最大標高差とする。 なお、搬入路伐採等における標高差も同様の考え方とする。</p> | 追加 |

| | | | |
|----------|---|--------------|----|
| 改訂内容 | 標準歩掛廃止に伴い全面削除 | | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 4-1-6 | <p>2 - 4 トランペット・クローバー型 I . C 詳細設計 2 - 4 - 1 歩掛の適用 トランペット・クローバ型 I C 詳細設計については、高架構造部分の延長が、そのランプ毎の全延長の60%を越えるランプについては、本歩掛は適用できない。</p> <div data-bbox="519 625 1261 1029" data-label="Diagram"> </div> <p>図 2 - 3 I . C 参考図</p> <p>Aランプ：Aランプ高架延長 / Aランプ全延長 = 30% 標準歩掛 Bランプ：Bランプ高架延長 / Bランプ全延長 = 61% 別途積算 Cランプ：Cランプ高架延長 / Cランプ全延長 = 80% 別途積算 Dランプ：Dランプ高架延長 / Dランプ全延長 = 60% 標準歩掛 但し、(A + B + C + D) < 3 km の場合</p> <p>ジャンクション詳細設計についても、トランペット・クローバー型 I . C 詳細設計の標準歩掛と、上記凡例を適用する。</p> | <p>【削 除】</p> | 削除 |

| 改訂内容 | トランペット・クローバ型IC詳細設計の運用削除に伴い適用範囲を移行 | | |
|----------|--|--|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 4-1-7 | <p>第3節 道路休憩施設設計 3-1 道路休憩施設設計 (1) 適用 標準歩掛は、高規格幹線道路及びこれに準ずる道路に設置する道路休憩施設設計(予備・詳細)に適用する。 (2) 通り抜け車道の延長 対象区間のノーズ間距離(積算延長:L)は下記のとおりとする。 <ケース1> $L = L_1 + L_2$ <ケース2> $L = L_1 + L_2 + L_3$ <ケース3> $L = L_1 + L_2 + L_3 + L_4$</p>  <p>(3) 詳細設計の横断面 仕様書でいう横断面の20m間隔は、通り抜け車道の道路設計に適用し、エリア部分の横断面については、標準部及び特殊部について作成する。 (4) インターチェンジとサービスエリア(パーキングエリア)の併設施工の場合の対象区間のノーズ間距離(積算延長:L) $L = L_1 + L_2 + L_3 + L_4$</p>  <p>(5) 橋梁予備(詳細)設計を同時に発注する場合は、橋梁部の延長はサービスエリア(パーキングエリア)予備(詳細)設計に計上しないものとする。 (6) 対象区間のノーズ間距離(積算延長:L)が長い場合 詳細設計で対象区間のノーズ間距離(積算延長:L)が3km以上になるものは別途積算とする。 (7) 高架構造を主体とする通り抜け車道の設計については、トランペット・クローバ型IC設計の高架構造についての運用によるものとする。</p> | <p>第3節 道路休憩施設設計 3-1 道路休憩施設設計 (1) 適用 標準歩掛は、高規格幹線道路及びこれに準ずる道路に設置する道路休憩施設設計(予備・詳細)に適用する。 (2) 通り抜け車道の延長 対象区間のノーズ間距離(積算延長:L)は下記のとおりとする。 <ケース1> $L = L_1 + L_2$ <ケース2> $L = L_1 + L_2 + L_3$ <ケース3> $L = L_1 + L_2 + L_3 + L_4$</p>  <p>(3) 詳細設計の横断面 仕様書でいう横断面の20m間隔は、通り抜け車道の道路設計に適用し、エリア部分の横断面については、標準部及び特殊部について作成する。 (4) インターチェンジとサービスエリア(パーキングエリア)の併設施工の場合の対象区間のノーズ間距離(積算延長:L) $L = L_1 + L_2 + L_3 + L_4$</p>  <p>(5) 橋梁予備(詳細)設計を同時に発注する場合は、橋梁部の延長はサービスエリア(パーキングエリア)予備(詳細)設計に計上しないものとする。 (6) 対象区間のノーズ間距離(積算延長:L)が長い場合 詳細設計で対象区間のノーズ間距離(積算延長:L)が3km以上になるものは別途積算とする。 (7) 高架構造を主体とする通り抜け車道の設計については、高架構造部分の延長が、そのランプ毎の全延長の60%を越えるランプについては、本歩掛は適用できない。</p> | 訂正 |

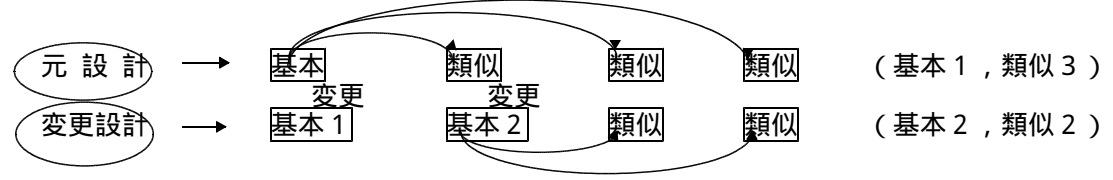
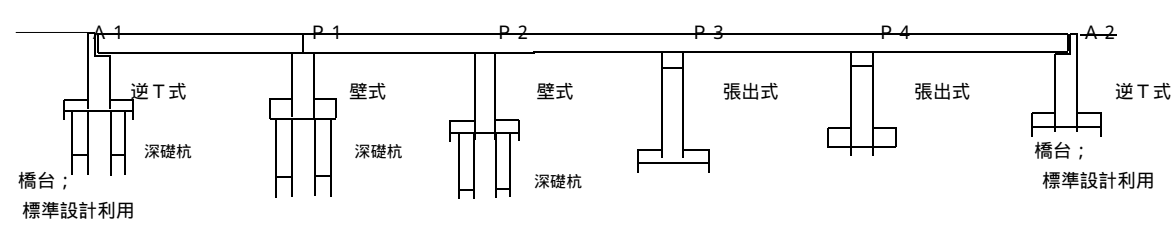
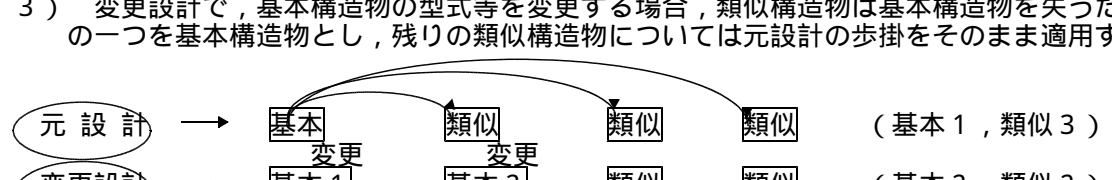
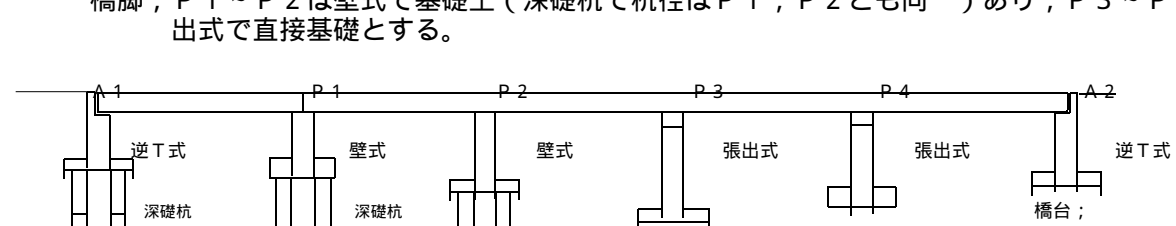
| | | | |
|----------|--|--|----|
| 改訂内容 | 一般構造物設計：重力式・逆T式擁壁詳細設計で、計算例を追加した。 | | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 4-1-22 | <p>2) 箇所数</p> <p>重力式： $n_a = 2$ (標準設計使用の断面数)</p> <p>逆T式： $n_b = 3 + 2 = 5$</p> <p>標準設計使用断面数 類似構造物使用の断面数</p> <p>3) 設計歩掛 (道路設計に含めて発注するため現地踏査は計上しない。)</p> <p>重力式： 1断面当り歩掛1 × 2 = 設計歩掛1</p> <p>重力式の n_a</p> <p>逆T式： 1断面当り歩掛2 × 5 = 設計歩掛2</p> <p>逆T式の n_b</p> <p>設計歩掛1 + 設計歩掛2 = 設計歩掛の合計</p> | <p>〔ケース3〕</p> <p>(1) 積算条件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 詳細設計である。道路設計に含めて発注する。(予備設計を行い、概略設計計算済。) 2) 杭基礎である。(標準設計は適用できない。) 3) 逆T式 延長 = 65m H = 2.0~5.0m 重力式 延長 = 60m (A)及び(D) (H = 2.0m, L = 40m (同高)) (B) (H = 2.0~5.0m, L = 20m) 4) 仮設設計は行わない。 <p>側面図</p>  | 追加 |

| 改訂内容 | 参考資料第1編第1章第2節2-2(1)の数量の端数処理方法に合わせる | | |
|----------|---|--|----------|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 4-1-40 | <p>2) 橋長補正 補正係数算定表より, 300m未満の場合; $0.853 \times L + 36.025$ (%) したがって, 橋長280mより, $0.853 \times 280 + 36.025 = 274.865$ 274.9 (%) (小数2位を四捨五入し, 小数1位止とする)</p> <p>注) 橋長が3000mを越えるものについては別途考慮する。</p> <p>3) 地震時保有水平耐力法による耐力照査 コントロールポイントとなる橋脚を1基有するため, 1基当たりの追加歩掛を橋長補正後の標準歩掛に加算する。</p> <p>4) 基礎地盤が杭基礎を必要とする場合の補正 杭基礎を必要とする場合は, 1橋当たり標準歩掛の10%を加算するが, 杭基礎を有する下部工の基数, 下部工の区分(橋台・橋脚)に関係なく, 一律とする。</p> <p>小 計(1) (直接人件費) 標準歩掛 $\times (274.9 / 100 + 0.10) +$ 1基 \times (地震時保有水平耐力法による耐力照査の1基当たりの追加歩掛) = 標準歩掛 $\times (2.75 + 0.10) +$ 1基 \times (地震時保有水平耐力法による耐力照査の1基当たりの追加歩掛) (小数3位を四捨五入し, 小数2位止とする。)</p> <p>(直接経費[電算機使用料]) 標準歩掛 $\times 0.01$</p> <p>5) 関係機関との協議資料作成 河川・道路管理者, JR等関係管理者との協議用・説明用資料が別途必要な場合に1業務当たりの追加歩掛を加算する。</p> <p>6) 現地踏査 現地踏査として1業務当たりの歩掛を計上する。</p> <p>7) 設計協議 設計協議として1業務当たりの歩掛を計上する。なお, 標準回数は4回とする。 (着手時+中間時$\times 2$+成果品納入時) 注) 着手時, 成果品納入時には原則として, 管理技術者が立ち会うよう特記仕様書に明示するものとする。</p> <p>8) その他 景観検討が必要な場合は別途考慮するものとし, 追加歩掛として加算する。</p> <p>小 計(2) (直接人件費) 「関係機関との協議資料作成」追加歩掛 「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛</p> <p>1業務当たり合 計 小 計(1)+小 計(2)</p> | <p>2) 橋長補正 補正係数算定表より, 300m未満の場合; $0.853 \times L + 36.025$ (%) したがって, 橋長280mより, $0.853 \times 280 + 36.025 = 274.865$ 274.9 (%) (小数2位を四捨五入し, 小数1位止とする)</p> <p>注) 橋長が3000mを越えるものについては別途考慮する。</p> <p>3) 地震時保有水平耐力法による耐力照査 コントロールポイントとなる橋脚を1基有するため, 1基当たりの追加歩掛を橋長補正後の標準歩掛に加算する。</p> <p>4) 基礎地盤が杭基礎を必要とする場合の補正 杭基礎を必要とする場合は, 1橋当たり標準歩掛の10%を加算するが, 杭基礎を有する下部工の基数, 下部工の区分(橋台・橋脚)に関係なく, 一律とする。</p> <p>小 計(1) (直接人件費) 標準歩掛 $\times (274.9 / 100 + 0.10) +$ 1基 \times (地震時保有水平耐力法による耐力照査の1基当たりの追加歩掛) = 標準歩掛 $\times (2.749 + 0.10) +$ 1基 \times (地震時保有水平耐力法による耐力照査の1基当たりの追加歩掛)</p> <p>(直接経費[電算機使用料]) 標準歩掛 $\times 0.01$</p> <p>5) 関係機関との協議資料作成 河川・道路管理者, JR等関係管理者との協議用・説明用資料が別途必要な場合に1業務当たりの追加歩掛を加算する。</p> <p>6) 現地踏査 現地踏査として1業務当たりの歩掛を計上する。</p> <p>7) 設計協議 設計協議として1業務当たりの歩掛を計上する。なお, 標準回数は4回とする。 (着手時+中間時$\times 2$+成果品納入時) 注) 着手時, 成果品納入時には原則として, 管理技術者が立ち会うよう特記仕様書に明示するものとする。</p> <p>8) その他 景観検討が必要な場合は別途考慮するものとし, 追加歩掛として加算する。</p> <p>小 計(2) (直接人件費) 「関係機関との協議資料作成」追加歩掛 「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛</p> <p>1業務当たり合 計 小 計(1)+小 計(2)</p> | 修正 削除 |

| 改訂内容 | 疲労設計に関する記述を追加 | | | | | | | | | | |
|------------|---|-----------|----------------------|------------|----------------------|--|-----------|----------------------|------------|----------------------|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | |
| 4-1-41 | <p>5 - 3 橋梁詳細設計 5 - 3 - 1 積算についての注意事項 1. 橋梁詳細設計全体 (1) 1橋当たりの歩掛 座標計算, 施工計画については, 上部工, 下部工, 基礎工, 架設工を全て含んだ1橋当たりの歩掛として計上する。 (2) 1業務当たりの歩掛 1) 現地踏査 現地踏査として1業務当たりの歩掛を計上する。 2) 設計協議 設計協議として1業務当たりの歩掛を計上する。なお, 標準回数は4回とする。 (着手時+中間時×2+成果品納入時) 注) 着手時, 成果品納入時には原則として, 管理技術者が立ち会うよう特記仕様書に明示するものとする。</p> <p>橋梁詳細設計全体 (直接人件費)</p> <table border="1" data-bbox="281 871 1439 1018"> <tr> <td>[1橋当たり]</td> <td>「座標計算」歩掛 「施工計画」歩掛</td> </tr> <tr> <td>[1業務当たり]</td> <td>「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛</td> </tr> </table> <p>2. 橋梁上部工 (1) 類似構造物 1) 類似構造物の範囲は, 同一業務内のみ適用する。(連続高架橋を2つ以上の業務に分割して発注する場合は, 類似構造物として取り扱えないため, 設計区間割等について十分検討する。) 2) 同一橋種で橋長の異なる複数の橋梁を設計する場合, 一番橋長の長いものを基本構造物とし, その他は類似構造物として取り扱う。 (上下線が分離した橋梁についても同様とする。) 3) 同一橋種の橋梁における類似構造物の取り扱い, 基本となる構造物を1橋のみ計上する。なお, 類似構造物を基本構造物に読み替えた“類似の類似”は行わない。 4) 変更設計で, 基本構造物の橋種等を変更する場合, 類似構造物は基本構造物を失うため類似構造物の一つを基本構造物とし, 残りの類似構造物については元設計の歩掛をそのまま適用する。</p>  | [1橋当たり] | 「座標計算」歩掛 「施工計画」歩掛 | [1業務当たり] | 「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛 | <p>5 - 3 橋梁詳細設計 5 - 3 - 1 積算についての注意事項 1. 橋梁詳細設計全体 (1) 1橋当たりの歩掛 座標計算, 施工計画については, 上部工, 下部工, 基礎工, 架設工を全て含んだ1橋当たりの歩掛として計上する。 (2) 1業務当たりの歩掛 1) 現地踏査 現地踏査として1業務当たりの歩掛を計上する。 2) 設計協議 設計協議として1業務当たりの歩掛を計上する。なお, 標準回数は4回とする。 (着手時+中間時×2+成果品納入時) 注) 着手時, 成果品納入時には原則として, 管理技術者が立ち会うよう特記仕様書に明示するものとする。</p> <p>橋梁詳細設計全体 (直接人件費)</p> <table border="1" data-bbox="1558 871 2715 1018"> <tr> <td>[1橋当たり]</td> <td>「座標計算」歩掛 「施工計画」歩掛</td> </tr> <tr> <td>[1業務当たり]</td> <td>「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛</td> </tr> </table> <p>(3) 鋼橋の設計における疲労の検討 鋼橋の設計において, 疲労の検討を行う必要がある場合は, 別途考慮する。</p> <p>2. 橋梁上部工 (1) 類似構造物 1) 類似構造物の範囲は, 同一業務内のみ適用する。(連続高架橋を2つ以上の業務に分割して発注する場合は, 類似構造物として取り扱えないため, 設計区間割等について十分検討する。) 2) 同一橋種で橋長の異なる複数の橋梁を設計する場合, 一番橋長の長いものを基本構造物とし, その他は類似構造物として取り扱う。 (上下線が分離した橋梁についても同様とする。) 3) 同一橋種の橋梁における類似構造物の取り扱い, 基本となる構造物を1橋のみ計上する。なお, 類似構造物を基本構造物に読み替えた“類似の類似”は行わない。 4) 変更設計で, 基本構造物の橋種等を変更する場合, 類似構造物は基本構造物を失うため類似構造物の一つを基本構造物とし, 残りの類似構造物については元設計の歩掛をそのまま適用する。</p>  | [1橋当たり] | 「座標計算」歩掛 「施工計画」歩掛 | [1業務当たり] | 「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛 | 追加 |
| [1橋当たり] | 「座標計算」歩掛 「施工計画」歩掛 | | | | | | | | | | |
| [1業務当たり] | 「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛 | | | | | | | | | | |
| [1橋当たり] | 「座標計算」歩掛 「施工計画」歩掛 | | | | | | | | | | |
| [1業務当たり] | 「現地踏査」歩掛 「設計協議」歩掛 | | | | | | | | | | |

| 改訂内容 | 説明を追加 | | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|--|----|------|------------|------|-------------|-----|--------|---|-----|--|------|------------|------|-------------|-----|--------|--|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 追加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4-1-42 | <p>(2) 同一の上部工の場合</p> <p>1) 1業務において同一の上部工がある場合は1橋分のみ計上する。同一の上部工とは下記の条件を満足するものをいう。 橋種が同一であること。 橋長及びスパン割りが同一であること。 幅員が同一であること。 斜橋、バチ形橋の場合は斜角及びバチ形が同一であること。 曲線橋の場合は曲線要素が同一であること。(上下線が分離している場合、曲線要素が異なる場合は同一と見なさない。) 床版で対応できる範囲の曲線橋及びバチ形橋については、同一の橋梁とする。</p> <p>2) 同一橋梁の考え方は、変更設計に与える影響が大きいため、当初設計から十分な検討のうえ設計橋数を計上すること。</p> <p>(3) 上部工・下部工一体型橋梁の場合 下記橋種の場合、橋脚工は計上しないものとする。なお、橋台工、基礎工を必要とする場合は別途計上する。</p> | <p>(2) 同一の上部工の場合</p> <p>1) 1業務において同一の上部工がある場合は1橋分のみ計上する。同一の上部工とは下記の条件を満足するものをいう。 橋種が同一であること。 橋長及びスパン割りが同一であること。 幅員が同一であること。 斜橋、バチ形橋の場合は斜角及びバチ形が同一であること。 曲線橋の場合は曲線要素が同一であること。(上下線が分離している場合、曲線要素が異なる場合は同一と見なさない。) 床版で対応できる範囲の曲線橋及びバチ形橋については、同一の橋梁とする。</p> <p>2) 同一橋梁の考え方は、変更設計に与える影響が大きいため、当初設計から十分な検討のうえ設計橋数を計上すること。</p> <p>(3) 上部工・下部工一体型橋梁の場合 下記橋種の場合、橋脚工(垂真材含む)は計上しないものとする。なお、橋台工、基礎工を必要とする場合は別途計上する。</p> | 追加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr><th colspan="2">橋 種</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>(RC)</td><td>3径間連続ラーメン橋</td></tr> <tr><td>(PC)</td><td>斜材付き 型ラーメン橋</td></tr> <tr><td>(鋼)</td><td>型ラーメン橋</td></tr> </tbody> </table> | 橋 種 | | (RC) | 3径間連続ラーメン橋 | (PC) | 斜材付き 型ラーメン橋 | (鋼) | 型ラーメン橋 | <table border="1"> <thead> <tr><th colspan="2">橋 種</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>(RC)</td><td>3径間連続ラーメン橋</td></tr> <tr><td>(PC)</td><td>斜材付き 型ラーメン橋</td></tr> <tr><td>(鋼)</td><td>型ラーメン橋</td></tr> </tbody> </table> | 橋 種 | | (RC) | 3径間連続ラーメン橋 | (PC) | 斜材付き 型ラーメン橋 | (鋼) | 型ラーメン橋 | |
| 橋 種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (RC) | 3径間連続ラーメン橋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (PC) | 斜材付き 型ラーメン橋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (鋼) | 型ラーメン橋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 橋 種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (RC) | 3径間連続ラーメン橋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (PC) | 斜材付き 型ラーメン橋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (鋼) | 型ラーメン橋 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(4) 上部工詳細設計の積算例 (例) 設計条件; [予備設計なし]</p> <p>4径間連続ポストテンションT桁橋 (基本構造物, 橋長168m, R=300m, 斜角65°) 同 上 (類似構造物, 橋長160m, R=280m, 斜角65°) 単純ポストテンションT桁橋 (標準設計利用, 橋長30m) 同 上 (標準設計利用, 橋長35m)</p> | <p>(4) 上部工詳細設計の積算例 (例) 設計条件; [予備設計なし]</p> <p>4径間連続ポストテンションT桁橋 (基本構造物, 橋長168m, R=300m, 斜角65°) 同 上 (類似構造物, 橋長160m, R=280m, 斜角65°) 単純ポストテンションT桁橋 (標準設計利用, 橋長30m) 同 上 (標準設計利用, 橋長35m)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 改訂内容 | 参考資料第1編第1章第2節2-2(1)の数量の端数処理方法に合わせる | | |
|----------|---|--|----------|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 4-1-43 | <p>1) 電算機使用料 電算機使用料は、上部工橋種毎にそれぞれ標準歩掛の1%を直接経費として計上する。</p> <p>2) 橋長補正 3径間連続ポストテンションT桁橋の橋長補正式より、$y = 0.366 \times L + 53.34$ (%) したがって、橋長168mの場合；$0.366 \times 168 + 53.34 = 114.828$ 114.8 (%) (小数2位を四捨五入し、小数1位止とする) 橋長160mの場合；$0.366 \times 160 + 53.34 = 111.900$ 111.9 (%) (小数2位を四捨五入し、小数1位止とする)</p> <p>注) 歩掛適用範囲については、「径間毎の標準橋長」で決定し、適用橋長(4径間の場合は、3径間適用橋長×130%)を越えるものについては別途考慮するものとし、橋長補正式による歩掛の補正はしないものとする。</p> <p>3) 予備設計の有無による補正 予備設計を実施していない場合は、標準歩掛(予備設計あり)の5%を加算する。</p> <p>4) 径間が変化する場合の補正 連続桁の場合、標準歩掛(3径間)に対して各補正率を乗じたものを加算する。したがって、4径間の場合は、標準歩掛の5%を加算する。 注) 径間数が7径間以上のものについては、別途考慮するものとする。</p> <p>5) 形状の変化する場合の補正 斜橋、バチ形橋、曲線橋の場合、標準歩掛に対して各補正率を乗じたものを加算する。なお、床版で対応できる範囲の曲線橋及びバチ形橋については補正の対象としない。また、形状補正項目が重複する場合は、該当補正率のうち上位の補正率を単独使用する。 したがって、曲線橋(補正率80%)で斜橋(補正率10%)の場合は、上位補正率である80%のみを標準歩掛に乗じたものを加算する。</p> <p>6) 標準設計を利用する場合の補正 単純ポストテンションT桁橋の標準設計利用が2橋のため、標準歩掛(単純ポストテンションT桁橋[予備設計あり])×60%×2橋を計上する。</p> <p>7) その他 景観検討が必要な場合は別途考慮するものとし、追加歩掛として加算する。</p> <p>上部工合計 (直接人件費) *4径間連続ポストテンションT桁橋 [基本構造物] 標準歩掛(3径間) × (114.8 / 100 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 1 = 標準歩掛(3径間) × (1.15 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 1 [類似構造物] 標準歩掛(3径間) × (111.9 / 100 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 0.65 = 標準歩掛(3径間) × (1.12 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 0.65 (小数3位を四捨五入し、小数2位止とする。)</p> <p>*単純ポストテンションT桁橋 標準歩掛(単純ポストテンションT桁橋[予備設計あり]) × 0.60 × 2橋 (直接経費[電算機使用料]) 標準歩掛(3径間連続ポストテンションT桁橋) × 0.01 (単純ポストテンションT桁橋は標準設計を利用するので対象としない)</p> | <p>1) 電算機使用料 電算機使用料は、上部工橋種毎にそれぞれ標準歩掛の1%を直接経費として計上する。</p> <p>2) 橋長補正 3径間連続ポストテンションT桁橋の橋長補正式より、$y = 0.366 \times L + 53.34$ (%) したがって、橋長168mの場合；$0.366 \times 168 + 53.34 = 114.828$ 114.8 (%) (小数2位を四捨五入し、小数1位止とする) 橋長160mの場合；$0.366 \times 160 + 53.34 = 111.900$ 111.9 (%) (小数2位を四捨五入し、小数1位止とする)</p> <p>注) 歩掛適用範囲については、「径間毎の標準橋長」で決定し、適用橋長(4径間の場合は、3径間適用橋長×130%)を越えるものについては別途考慮するものとし、橋長補正式による歩掛の補正はしないものとする。</p> <p>3) 予備設計の有無による補正 予備設計を実施していない場合は、標準歩掛(予備設計あり)の5%を加算する。</p> <p>4) 径間が変化する場合の補正 連続桁の場合、標準歩掛(3径間)に対して各補正率を乗じたものを加算する。したがって、4径間の場合は、標準歩掛の5%を加算する。 注) 径間数が7径間以上のものについては、別途考慮するものとする。</p> <p>5) 形状の変化する場合の補正 斜橋、バチ形橋、曲線橋の場合、標準歩掛に対して各補正率を乗じたものを加算する。なお、床版で対応できる範囲の曲線橋及びバチ形橋については補正の対象としない。また、形状補正項目が重複する場合は、該当補正率のうち上位の補正率を単独使用する。 したがって、曲線橋(補正率80%)で斜橋(補正率10%)の場合は、上位補正率である80%のみを標準歩掛に乗じたものを加算する。</p> <p>6) 標準設計を利用する場合の補正 単純ポストテンションT桁橋の標準設計利用が2橋のため、標準歩掛(単純ポストテンションT桁橋[予備設計あり])×60%×2橋を計上する。</p> <p>7) その他 景観検討が必要な場合は別途考慮するものとし、追加歩掛として加算する。</p> <p>上部工合計 (直接人件費) *4径間連続ポストテンションT桁橋 [基本構造物] 標準歩掛(3径間) × (114.8 / 100 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 1 = 標準歩掛(3径間) × (1.148 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 1 [類似構造物] 標準歩掛(3径間) × (111.9 / 100 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 0.65 = 標準歩掛(3径間) × (1.119 + 0.05 + 0.05 + 0.80) × 0.65</p> <p>*単純ポストテンションT桁橋 標準歩掛(単純ポストテンションT桁橋[予備設計あり]) × 0.60 × 2橋 (直接経費[電算機使用料]) 標準歩掛(3径間連続ポストテンションT桁橋) × 0.01 (単純ポストテンションT桁橋は標準設計を利用するので対象としない)</p> | 修正 削除 |

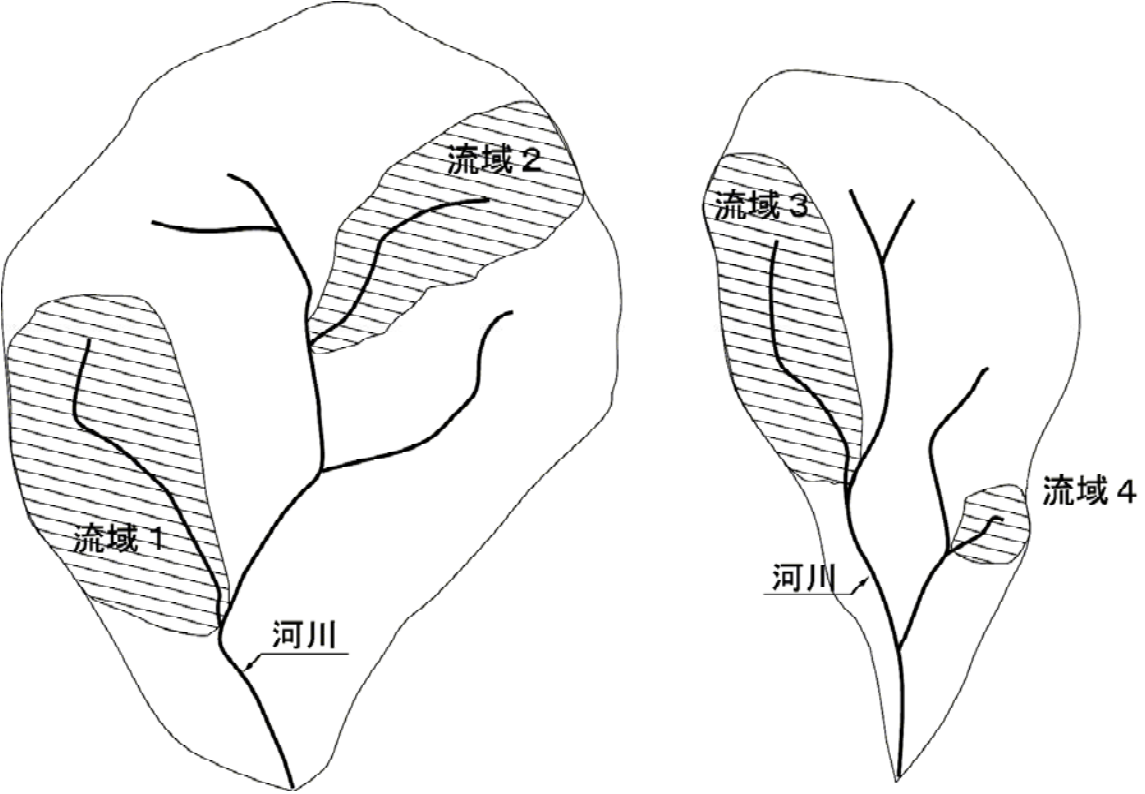
| 改訂内容 | 説明を追加 | | |
|----------|---|--|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | |
| 4-1-44 | <p>3. 橋梁下部工・橋梁基礎工</p> <p>(1) 橋梁下部工(標準歩掛)</p> <p>1) BOXアバットの歩掛は、ラーメン橋台の歩掛を使用すること。</p> <p>2) 橋脚の逆T式と張出式の考え方は、次のとおりとする。 逆T式 ----- 張り出し部に上部工荷重がかからない場合 張出式 ----- 張り出し部に上部工荷重がかかる場合</p> <p>(2) 類似構造物</p> <p>1) 類似構造物の範囲は、同一業務内のみ適用する。(連続高架橋を2つ以上の業務に分割して発注する場合は、類似構造物として取り扱えないため、設計区間割等について十分検討する。)</p> <p>2) 同一型式の橋梁における類似構造物の取り扱い、基本となる構造物を1基のみ計上する。なお、類似構造物を基本構造物に読み替えた“類似の類似”は行わない。</p> <p>3) 変更設計で、基本構造物の型式等を変更する場合、類似構造物は基本構造物を失うため類似構造物の一つを基本構造物とし、残りの類似構造物については元設計の歩掛をそのまま適用する。</p>  <p>(3) 同一の下部工・基礎工の場合</p> <p>1) 1業務において同一の下部工・基礎工がある場合は1基のみ計上する。同一の下部工・基礎工とは下記の条件を満足するものをいう。</p> <p>(下部工) 上部反力(支承条件)が同一であること。 躯体幅、高さが同一であること。 構造型式(重力式、逆T式、柱式等)が同一であること。</p> <p>(基礎工) 上記下部工の同一条件を満足するもの。 杭種、杭径が同一であるもの。(杭長、杭本数も同一)</p> <p>(4) 下部工・基礎工詳細設計の積算例 (例) 設計条件 橋台; A1, A2共に逆T式でA1には基礎工(深礎杭)あり, A2は直接基礎とする。なお, A1, A2共に標準設計を利用する。 橋脚; P1~P2は壁式で基礎工(深礎杭で杭径はP1, P2とも同一)あり, P3~P4は張出式で直接基礎とする。</p>  | <p>3. 橋梁下部工・橋梁基礎工</p> <p>(1) 橋梁下部工(標準歩掛)</p> <p>1) BOXアバットの歩掛は、ラーメン橋台の歩掛を使用すること。</p> <p>2) 橋脚の逆T式と張出式の考え方は、次のとおりとする。 逆T式 ----- 張り出し部に上部工荷重がかからない場合 張出式 ----- 張り出し部に上部工荷重がかかる場合</p> <p>3) 液状化が生じる地盤にある橋台基礎の検討については、現行歩掛に含まれる。</p> <p>4) 橋梁下部工の設計において、鋼製橋脚は、別途考慮する。</p> <p>(2) 類似構造物</p> <p>1) 類似構造物の範囲は、同一業務内のみ適用する。(連続高架橋を2つ以上の業務に分割して発注する場合は、類似構造物として取り扱えないため、設計区間割等について十分検討する。)</p> <p>2) 同一型式の橋梁における類似構造物の取り扱い、基本となる構造物を1基のみ計上する。なお、類似構造物を基本構造物に読み替えた“類似の類似”は行わない。</p> <p>3) 変更設計で、基本構造物の型式等を変更する場合、類似構造物は基本構造物を失うため類似構造物の一つを基本構造物とし、残りの類似構造物については元設計の歩掛をそのまま適用する。</p>  <p>(3) 同一の下部工・基礎工の場合</p> <p>1) 1業務において同一の下部工・基礎工がある場合は1基のみ計上する。同一の下部工・基礎工とは下記の条件を満足するものをいう。</p> <p>(下部工) 上部反力(支承条件)が同一であること。 躯体幅、高さが同一であること。 構造型式(重力式、逆T式、柱式等)が同一であること。</p> <p>(基礎工) 上記下部工の同一条件を満足するもの。 杭種、杭径が同一であるもの。(杭長、杭本数も同一)</p> <p>(4) 下部工・基礎工詳細設計の積算例 (例) 設計条件 橋台; A1, A2共に逆T式でA1には基礎工(深礎杭)あり, A2は直接基礎とする。なお, A1, A2共に標準設計を利用する。 橋脚; P1~P2は壁式で基礎工(深礎杭で杭径はP1, P2とも同一)あり, P3~P4は張出式で直接基礎とする。</p>  | 追加 |

| 改訂内容 | 説明を追加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|---------|----|------|---|------|---|----------------|--|------|--|------|---|---|---------|--|------|---|------|---|----------------|--|------|--|------|---|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4-1-45 | <p>1) 電算機使用料 電算機使用料は、下部工では下部工構造型式毎にそれぞれ標準歩掛の1%を直接経費として計上するものとし、基礎工がある場合は基礎工構造型式毎にそれぞれ標準歩掛の2%を直接経費として計上する。</p> <p>2) 標準設計を利用する場合の補正 A1・A2橋台(逆T式)共に標準設計が利用できるため、標準歩掛(逆T式橋台)×60%×2基(A1・A2橋台)を計上する。</p> <p>3) 類似構造物の補正 下部工躯体の構造型式が同一であるP1とP2(壁式橋脚)及びP3とP4(張出式橋脚)はそれぞれに類似構造物として補正する。 基礎工については、下部工型式が異なるA1橋台は単独とし、P1とP2橋脚基礎工(深礎杭)は下部工が同型式(壁式)であるので類似構造物として補正する。</p> <p>下部工,基礎工合計</p> <table border="1" data-bbox="237 814 1478 1264"> <tr><td colspan="2">(直接人件費)</td></tr> <tr><td>*下部工</td><td>橋台 ; 標準歩掛(逆T式橋台)×0.60×2(A1・A2橋台の2基) 橋脚(壁式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(壁式橋脚)×(0.30+0.70×2) 橋脚(張出式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(張出式橋脚)×(0.30+0.70×2)</td></tr> <tr><td>*基礎工</td><td>橋台部;標準歩掛(深礎杭)×1(A1橋台1基のみ類似構造物なし) 橋脚部(深礎杭;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(深礎杭)×(0.30+0.70×2)</td></tr> <tr><td colspan="2">(直接経費[電算機使用料])</td></tr> <tr><td>*下部工</td><td>標準歩掛(壁式橋脚)×0.01+標準歩掛(張出式橋脚)×0.01 (橋台は標準設計を利用するので対象とせず、壁式橋脚,張出式橋脚の2型式を対象とする)</td></tr> <tr><td>*基礎工</td><td>標準歩掛(深礎杭)×0.02 (基礎工は深礎杭の1型式のみであることから1型式を対象とする)</td></tr> </table> <p>4. 橋梁架設工 (1) 橋梁詳細設計における架設計画 上部工の架設計画を検討する場合は、別紙[鋼橋の架設工法選定の参考フローチャート][コンクリート橋の架設工法の適用に関する一般的な目安(参考)]を参考に現地に適した架設工法の選定を行うものとする。 (2) 設計歩掛を計上できる架設工法 架設工法選定において別紙工法のうち、自走クレーン車の直接架設でかつ支保工の必要のない簡易な架設を除いた架設工法の場合にのみ設計歩掛を計上することを原則とする。 (なお、簡易な架設とは支間が短く、自走式クレーンによって直接、桁を橋台・橋脚上に架設することが可能な工法をいう。)</p> | (直接人件費) | | *下部工 | 橋台 ; 標準歩掛(逆T式橋台)×0.60×2(A1・A2橋台の2基) 橋脚(壁式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(壁式橋脚)×(0.30+0.70×2) 橋脚(張出式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(張出式橋脚)×(0.30+0.70×2) | *基礎工 | 橋台部;標準歩掛(深礎杭)×1(A1橋台1基のみ類似構造物なし) 橋脚部(深礎杭;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(深礎杭)×(0.30+0.70×2) | (直接経費[電算機使用料]) | | *下部工 | 標準歩掛(壁式橋脚)×0.01+標準歩掛(張出式橋脚)×0.01 (橋台は標準設計を利用するので対象とせず、壁式橋脚,張出式橋脚の2型式を対象とする) | *基礎工 | 標準歩掛(深礎杭)×0.02 (基礎工は深礎杭の1型式のみであることから1型式を対象とする) | <p>1) 電算機使用料 電算機使用料は、下部工では下部工構造型式毎にそれぞれ標準歩掛の1%を直接経費として計上するものとし、基礎工がある場合は基礎工構造型式毎にそれぞれ標準歩掛の2%を直接経費として計上する。</p> <p>2) 標準設計を利用する場合の補正 A1・A2橋台(逆T式)共に標準設計が利用できるため、標準歩掛(逆T式橋台)×60%×2基(A1・A2橋台)を計上する。</p> <p>3) 類似構造物の補正 下部工躯体の構造型式が同一であるP1とP2(壁式橋脚)及びP3とP4(張出式橋脚)はそれぞれに類似構造物として補正する。 基礎工については、下部工型式が異なるA1橋台は単独とし、P1とP2橋脚基礎工(深礎杭)は下部工が同型式(壁式)であるので類似構造物として補正する。</p> <p>下部工,基礎工合計</p> <table border="1" data-bbox="1513 814 2754 1264"> <tr><td colspan="2">(直接人件費)</td></tr> <tr><td>*下部工</td><td>橋台 ; 標準歩掛(逆T式橋台)×0.60×2(A1・A2橋台の2基) 橋脚(壁式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(壁式橋脚)×(0.30+0.70×2) 橋脚(張出式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(張出式橋脚)×(0.30+0.70×2)</td></tr> <tr><td>*基礎工</td><td>橋台部;標準歩掛(深礎杭)×1(A1橋台1基のみ類似構造物なし) 橋脚部(深礎杭;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(深礎杭)×(0.30+0.70×2)</td></tr> <tr><td colspan="2">(直接経費[電算機使用料])</td></tr> <tr><td>*下部工</td><td>標準歩掛(壁式橋脚)×0.01+標準歩掛(張出式橋脚)×0.01 (橋台は標準設計を利用するので対象とせず、壁式橋脚,張出式橋脚の2型式を対象とする)</td></tr> <tr><td>*基礎工</td><td>標準歩掛(深礎杭)×0.02 (基礎工は深礎杭の1型式のみであることから1型式を対象とする)</td></tr> </table> <p>4. 橋梁架設工 (1) 橋梁詳細設計における架設計画 上部工の架設計画を検討する場合は、別紙[鋼橋の架設工法選定の参考フローチャート][コンクリート橋の架設工法の適用に関する一般的な目安(参考)]を参考に現地に適した架設工法の選定を行うものとする。 (2) 設計歩掛を計上できる架設工法 架設工法選定において別紙工法のうち、自走クレーン車の直接架設でかつ支保工の必要のない簡易な架設を除いた架設工法の場合にのみ設計歩掛を計上することを原則とする。 (なお、簡易な架設とは支間が短く、自走式クレーンによって直接、桁を橋台・橋脚上に架設することが可能な工法をいう。) なお、1つの橋梁において同種工法を2箇所使用する場合は架設工法数は1工法とし、2つの橋梁において同種工法をそれぞれ使用する場合は架設工法数は2工法とする。</p> | (直接人件費) | | *下部工 | 橋台 ; 標準歩掛(逆T式橋台)×0.60×2(A1・A2橋台の2基) 橋脚(壁式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(壁式橋脚)×(0.30+0.70×2) 橋脚(張出式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(張出式橋脚)×(0.30+0.70×2) | *基礎工 | 橋台部;標準歩掛(深礎杭)×1(A1橋台1基のみ類似構造物なし) 橋脚部(深礎杭;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(深礎杭)×(0.30+0.70×2) | (直接経費[電算機使用料]) | | *下部工 | 標準歩掛(壁式橋脚)×0.01+標準歩掛(張出式橋脚)×0.01 (橋台は標準設計を利用するので対象とせず、壁式橋脚,張出式橋脚の2型式を対象とする) | *基礎工 | 標準歩掛(深礎杭)×0.02 (基礎工は深礎杭の1型式のみであることから1型式を対象とする) | 追加 |
| (直接人件費) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *下部工 | 橋台 ; 標準歩掛(逆T式橋台)×0.60×2(A1・A2橋台の2基) 橋脚(壁式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(壁式橋脚)×(0.30+0.70×2) 橋脚(張出式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(張出式橋脚)×(0.30+0.70×2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *基礎工 | 橋台部;標準歩掛(深礎杭)×1(A1橋台1基のみ類似構造物なし) 橋脚部(深礎杭;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(深礎杭)×(0.30+0.70×2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (直接経費[電算機使用料]) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *下部工 | 標準歩掛(壁式橋脚)×0.01+標準歩掛(張出式橋脚)×0.01 (橋台は標準設計を利用するので対象とせず、壁式橋脚,張出式橋脚の2型式を対象とする) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *基礎工 | 標準歩掛(深礎杭)×0.02 (基礎工は深礎杭の1型式のみであることから1型式を対象とする) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (直接人件費) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *下部工 | 橋台 ; 標準歩掛(逆T式橋台)×0.60×2(A1・A2橋台の2基) 橋脚(壁式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(壁式橋脚)×(0.30+0.70×2) 橋脚(張出式橋脚;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(張出式橋脚)×(0.30+0.70×2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *基礎工 | 橋台部;標準歩掛(深礎杭)×1(A1橋台1基のみ類似構造物なし) 橋脚部(深礎杭;基本構造物1基・類似構造物1基) 標準歩掛(深礎杭)×(0.30+0.70×2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (直接経費[電算機使用料]) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *下部工 | 標準歩掛(壁式橋脚)×0.01+標準歩掛(張出式橋脚)×0.01 (橋台は標準設計を利用するので対象とせず、壁式橋脚,張出式橋脚の2型式を対象とする) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *基礎工 | 標準歩掛(深礎杭)×0.02 (基礎工は深礎杭の1型式のみであることから1型式を対象とする) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 改訂内容 | 通達に伴い記載を変更 | | |
|----------|--|--|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 4-1-48 | <p>5 - 4 土木構造物標準設計</p> <p>(1) 土木構造物標準設計第18巻, 第19巻(平成8年3月)の運用 土木構造物標準設計第18巻, 第19巻(プレテンション方式PC単純床版橋)を利用する場合は, 当面標準歩掛の(PC)プレテンションホロー桁を使用し, 標準設計の補正を行うものとする。なお, 標準歩掛の(PC)単純中空床版橋は適用しない。</p> <p>(2) 標準設計の利用 平成8年11月1日付け通達「橋、高架の道路等の技術基準について」において道路橋示方書が改定されており, 使用にあたっては十分注意する。</p> | <p>5 - 4 土木構造物標準設計</p> <p>(1) 土木構造物標準設計第18巻, 第19巻(平成8年3月)の運用 土木構造物標準設計第18巻, 第19巻(プレテンション方式PC単純床版橋)を利用する場合は, 当面標準歩掛の(PC)プレテンションホロー桁を使用し, 標準設計の補正を行うものとする。なお, 標準歩掛の(PC)単純中空床版橋は適用しない。</p> <p>(2) 標準設計の利用 平成13年12月27日付け通達「橋、高架の道路等の技術基準について」において道路橋示方書が改定されており, 使用にあたっては十分注意する。</p> | 訂正 |

参考資料新旧対照表

| 改訂内容 | 基準書へ移行するため削除 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|------|-------|------|--|------|---|---------|--|-------|--|-------|---|---------|---|-------|---------------------------|-------|---|-------|---|---------|---|------------|---|------|---|-----|---|--|--|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4-1-49 | <p>第6節 トンネル設計 6-1 山岳トンネル詳細設計作業区分 山岳トンネル詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="252 499 1380 1759"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作業の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td>業務概要、実施方針、業務工程、組織計画、打合せ計画等を記載した業務計画書を作成する。</td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td>設計範囲及び管与資料と現地の整合性、地形、地質等の自然条件、地物、環境条件等の周辺状況等の把握。工用道路・施工ヤード等の施工性の判断及び施工設備計画の立案に必要な現地状況を把握する。</td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td>道路の幾何構造、建築限界、交通量等の検討・設計上の基本的条件について確認を行う。</td> </tr> <tr> <td>本体工設計</td> <td>地質調査資料、現地踏査結果及び関連資料等に基づき、技術基準に示される地山分類を行い、地質平面縦断図を作成する。技術基準及び道路の幅員構成、建築限界、内装版、換気等諸設備の条件及び地山分類等を基に、内空断面、断面構造を検討・整理し適用断面の選定及び平面縦断図を作成する。また、選定された適用断面について、支保工の構造及び規模を算定する。必要に応じて、補助工法の併用も考慮した断面及び支保工の検討を行う。トンネルの延長、地形、地質、地物、トンネル断面及び周辺の環境条件を考慮して、技術的検討、経済的な評価を行い、合理的な掘削方式及び掘削工法を選定する。</td> </tr> <tr> <td>坑門工設計</td> <td>坑門躯体の構造計算を行うとともに坑門工により必要となる坑門工背部、前部の土工、法面工、抱き擁壁工、排水工の設計を行う。</td> </tr> <tr> <td>坑門工比較設計</td> <td>実測平面図を用い1坑口あたり3案程度の比較案を抽出し、総合的な観点から技術的特徴、課題を整理し、評価を加えるとともに簡易な透視図及び比較検討書を作成のうえ、坑門工の位置・型式を選定する。</td> </tr> <tr> <td>防水工設計</td> <td>トンネル内への漏水を防ぐための防水工の設計を行う。</td> </tr> <tr> <td>排水工設計</td> <td>トンネルの湧水及び路面水を適切に処理するため、覆工背面排水、路面排水、路盤排水を考慮し、排水溝、排水管、集水樹等の排水構造物の設計を行うとともに、トンネル内の排水系統の計画を行うものとする。</td> </tr> <tr> <td>舗装工設計</td> <td>交通量をもとに、排水性、照明効果、走行性、維持管理等を考慮し、トンネル内舗装の比較検討のうえ、舗装の種類・構成を設計する。</td> </tr> <tr> <td>非常用施設設計</td> <td>トンネル延長及び交通量を基に、トンネル等級を決定し、非常用施設を選定、配置計画を行うとともに施設収容のための箱抜き設計を行う。</td> </tr> <tr> <td>施工計画・仮設備計画</td> <td>施工方法、工程、施工ヤード計画等各事項に関する検討を、取りまとめた施工計画書を作成するとともに、必要に応じて参考図を作成する。トンネル施工に伴う仮設備（換気、仮排水、電力、ストックヤード、工用道路検討等）について、各必要項目の検討を行うとともに、参考図を作成する。指定された位置を対象に、すり捨場の概略検討を行う。</td> </tr> <tr> <td>換気検討</td> <td>トンネルの延長、縦断勾配、トンネル断面及び周辺の環境条件を考慮して、既存資料を基に所要換気量を算定し計画可能な3案程度の換気方法を対象に比較検討を行い、経済的かつ合理的な換気方法を選定する。</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td>現地状況、基礎情報の収集、把握の適切性、各種施工条件が設計計画に反映されているか、設計方針及び設計手法の照査。設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性等の照査を行う。</td> </tr> </tbody> </table> | 作業区分 | 作業の範囲 | 設計計画 | 業務概要、実施方針、業務工程、組織計画、打合せ計画等を記載した業務計画書を作成する。 | 現地踏査 | 設計範囲及び管与資料と現地の整合性、地形、地質等の自然条件、地物、環境条件等の周辺状況等の把握。工用道路・施工ヤード等の施工性の判断及び施工設備計画の立案に必要な現地状況を把握する。 | 設計条件の確認 | 道路の幾何構造、建築限界、交通量等の検討・設計上の基本的条件について確認を行う。 | 本体工設計 | 地質調査資料、現地踏査結果及び関連資料等に基づき、技術基準に示される地山分類を行い、地質平面縦断図を作成する。技術基準及び道路の幅員構成、建築限界、内装版、換気等諸設備の条件及び地山分類等を基に、内空断面、断面構造を検討・整理し適用断面の選定及び平面縦断図を作成する。また、選定された適用断面について、支保工の構造及び規模を算定する。必要に応じて、補助工法の併用も考慮した断面及び支保工の検討を行う。トンネルの延長、地形、地質、地物、トンネル断面及び周辺の環境条件を考慮して、技術的検討、経済的な評価を行い、合理的な掘削方式及び掘削工法を選定する。 | 坑門工設計 | 坑門躯体の構造計算を行うとともに坑門工により必要となる坑門工背部、前部の土工、法面工、抱き擁壁工、排水工の設計を行う。 | 坑門工比較設計 | 実測平面図を用い1坑口あたり3案程度の比較案を抽出し、総合的な観点から技術的特徴、課題を整理し、評価を加えるとともに簡易な透視図及び比較検討書を作成のうえ、坑門工の位置・型式を選定する。 | 防水工設計 | トンネル内への漏水を防ぐための防水工の設計を行う。 | 排水工設計 | トンネルの湧水及び路面水を適切に処理するため、覆工背面排水、路面排水、路盤排水を考慮し、排水溝、排水管、集水樹等の排水構造物の設計を行うとともに、トンネル内の排水系統の計画を行うものとする。 | 舗装工設計 | 交通量をもとに、排水性、照明効果、走行性、維持管理等を考慮し、トンネル内舗装の比較検討のうえ、舗装の種類・構成を設計する。 | 非常用施設設計 | トンネル延長及び交通量を基に、トンネル等級を決定し、非常用施設を選定、配置計画を行うとともに施設収容のための箱抜き設計を行う。 | 施工計画・仮設備計画 | 施工方法、工程、施工ヤード計画等各事項に関する検討を、取りまとめた施工計画書を作成するとともに、必要に応じて参考図を作成する。トンネル施工に伴う仮設備（換気、仮排水、電力、ストックヤード、工用道路検討等）について、各必要項目の検討を行うとともに、参考図を作成する。指定された位置を対象に、すり捨場の概略検討を行う。 | 換気検討 | トンネルの延長、縦断勾配、トンネル断面及び周辺の環境条件を考慮して、既存資料を基に所要換気量を算定し計画可能な3案程度の換気方法を対象に比較検討を行い、経済的かつ合理的な換気方法を選定する。 | 照 査 | 現地状況、基礎情報の収集、把握の適切性、各種施工条件が設計計画に反映されているか、設計方針及び設計手法の照査。設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性等の照査を行う。 | <p style="text-align: center;">削 除</p> | |
| 作業区分 | 作業の範囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設計計画 | 業務概要、実施方針、業務工程、組織計画、打合せ計画等を記載した業務計画書を作成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現地踏査 | 設計範囲及び管与資料と現地の整合性、地形、地質等の自然条件、地物、環境条件等の周辺状況等の把握。工用道路・施工ヤード等の施工性の判断及び施工設備計画の立案に必要な現地状況を把握する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設計条件の確認 | 道路の幾何構造、建築限界、交通量等の検討・設計上の基本的条件について確認を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本体工設計 | 地質調査資料、現地踏査結果及び関連資料等に基づき、技術基準に示される地山分類を行い、地質平面縦断図を作成する。技術基準及び道路の幅員構成、建築限界、内装版、換気等諸設備の条件及び地山分類等を基に、内空断面、断面構造を検討・整理し適用断面の選定及び平面縦断図を作成する。また、選定された適用断面について、支保工の構造及び規模を算定する。必要に応じて、補助工法の併用も考慮した断面及び支保工の検討を行う。トンネルの延長、地形、地質、地物、トンネル断面及び周辺の環境条件を考慮して、技術的検討、経済的な評価を行い、合理的な掘削方式及び掘削工法を選定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 坑門工設計 | 坑門躯体の構造計算を行うとともに坑門工により必要となる坑門工背部、前部の土工、法面工、抱き擁壁工、排水工の設計を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 坑門工比較設計 | 実測平面図を用い1坑口あたり3案程度の比較案を抽出し、総合的な観点から技術的特徴、課題を整理し、評価を加えるとともに簡易な透視図及び比較検討書を作成のうえ、坑門工の位置・型式を選定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 防水工設計 | トンネル内への漏水を防ぐための防水工の設計を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 排水工設計 | トンネルの湧水及び路面水を適切に処理するため、覆工背面排水、路面排水、路盤排水を考慮し、排水溝、排水管、集水樹等の排水構造物の設計を行うとともに、トンネル内の排水系統の計画を行うものとする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舗装工設計 | 交通量をもとに、排水性、照明効果、走行性、維持管理等を考慮し、トンネル内舗装の比較検討のうえ、舗装の種類・構成を設計する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 非常用施設設計 | トンネル延長及び交通量を基に、トンネル等級を決定し、非常用施設を選定、配置計画を行うとともに施設収容のための箱抜き設計を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工計画・仮設備計画 | 施工方法、工程、施工ヤード計画等各事項に関する検討を、取りまとめた施工計画書を作成するとともに、必要に応じて参考図を作成する。トンネル施工に伴う仮設備（換気、仮排水、電力、ストックヤード、工用道路検討等）について、各必要項目の検討を行うとともに、参考図を作成する。指定された位置を対象に、すり捨場の概略検討を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 換気検討 | トンネルの延長、縦断勾配、トンネル断面及び周辺の環境条件を考慮して、既存資料を基に所要換気量を算定し計画可能な3案程度の換気方法を対象に比較検討を行い、経済的かつ合理的な換気方法を選定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 照 査 | 現地状況、基礎情報の収集、把握の適切性、各種施工条件が設計計画に反映されているか、設計方針及び設計手法の照査。設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性等の照査を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|------------------|--|--|----|
| 改訂内容 | 〔砂防施設設計〕流木対策工において、「1流域」の説明が不足しているため、新規に追加する。 | | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| (新規) (4-1-71) | | <p data-bbox="1537 390 1849 422"><u>10-1-5 流木対策工</u></p> <p data-bbox="1537 443 2516 506">(1) <u>用語の定義</u> <u>流木対策調査における「流域」の範囲は、流木計画基準点より上流域とする。</u></p>  | 追加 |

| | | |
|----------|---|--|
| 改訂内容 | ・発注実績が少なく、各種条件との相関が見られないことから、標準歩掛の制定は困難である。 ・高度な技術力・知識が要求され、かつ非定型的な要素を含む業務であるため、ブレイク・ザン・ザンで対応する。 | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 |
| 5-1-1 | <p>第5編 その他調査、設計業務</p> <p>第1章 その他調査設計業務</p> <p>第1節 交通量推計業務</p> <p>1-1 交通量推計業務作業の流れ図</p> <pre> graph TD S1[計画準備] --> S2[配分対象路線の設定] S2 --- B1[調査対象地域 対象道路種別] S2 --> S3[ゾーニング] S3 --- B2[基礎OD・ゾーン] S3 --> S4a[現況配分対象道路 網データの作成] S3 --> S4b[現況配分 対象OD表の作成] S4a --> S5a[配分条件の設定] S4b --> S5a S5a --> S6a[現況交通量の配分] S6a --> S6b[検 証] S6b --> S6c[現況の交通解析] S6c --> S7a[将来配分対象道路 網データの作成] S7a --- B3[予測ケース及び 予測年次の設定] S7a --> S7b[将来配分を行う 対象OD表の作成] S7b --- B4[発注者からの 与条件] S7a --> S8a[将来交通量の配分] S8a --> S8b[将来の交通解析] S8b --> S9[報告書作成] </pre> | <p style="text-align: center;">削 除</p> |

参考資料新旧対照表

| 改訂内容 | ・発注実績が少なく、各種条件との相関が見られないことから、標準歩掛の制定は困難である。 ・高度な技術力・知識が要求され、かつ非定型的な要素を含む業務であるため、プロポーザルで対応する。 | | |
|----------|--|------------|----|
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 5-1-2 | <p>1 - 2 交通量推計業務の作業内容</p> <p>(1) 計画準備 計画準備 ... 業務目的・主旨を把握し、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を立てる作業。</p> <p>(2) 交通量配分用データの作成 (現況データ作成) 配分対象路線の設定 ... 交通量推計業務の対象地域及び推計する道路種別 (ここでは、高速道路、一般国道、主要地方道、県道といった種別を示す。) (以上は委託者から与えられる条件) をもとに、配分対象路線を設定する作業。 ゾ ー ニ ン グ ... 配分対象の道路網に即した地域の大きさにゾーンを新規分割、修正分割等を行う作業。 現況配分対象道路網データの作成 ... 今回の交通量配分を行う為の基本となる現況の対象道路網と交通量発集点を設定する作業。(基本ネットワークデータの作成) 現況配分対象OD表の作成 ... の結果をもとに与えられた現況のOD表について新規分割、修正分割等を行う作業。 配 分 条 件 の 設 定 ... 配分条件 (高速道路 - 一般道の転換式)、QVモデル、配分時のODの時間分割数を検討、設定する作業。</p> <p>(3) 交通量配分 (現況交通量配分) 現況交通量の配分 ... をもとに現況の交通量の配分計算を行う作業。 検 証 ... の設定の適否について現況交通量と照合する作業。 現況交通解析 ... 設計図書等に基づき、現況交通の特性について解析する作業。</p> <p>(4) 交通量配分データの作成 (将来データ作成) 将来配分対象道路網データの作成 ... をもとに将来配分を行う為に対象道路網と交通量発集点を修正設定する作業。(将来の基本ネットワークデータ作成と配分ケース別のデータ修正を行う。) 将来配分対象OD表の作成 ... の結果をもとに、与えられた将来OD表について新規分割、修正分割等を行う作業。</p> <p>(5) 交通量配分 (将来交通量配分) 将来交通量の配分 ... をもとに将来の交通量の配分計算を行う作業。 将 来 交 通 解 析 ... 設計図書等に基づき、将来交通の特性について解析する作業。</p> <p>(6) 報告書作成 報 告 書 作 成 ... 業務全体の成果をとりまとめ、報告書を執筆する作業。</p> | <p>削 除</p> | |

| | | | |
|----------|-------------------------|--|----|
| 改訂内容 | 道路環境調査の流れ及び積算基準適用範囲を追加。 | | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 5-1-1 | 新規 | <p>第5編 その他調査，設計業務</p> <p>第1章 その他調査，設計業務</p> <p>第1節 道路環境調査</p> <p>1-1 道路環境調査の流れ及び積算基準適用範囲</p> | 追加 |

| | | | |
|----------|-------------------------|---|----|
| 改訂内容 | 道路環境調査の流れ及び積算基準適用範囲を追加。 | | |
| 現行基準のページ | 現 行 | 改 訂 | 摘要 |
| 5-1-2 | 新 規 | <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">(準備書の作成より)</p> <pre> graph TD A[公告・縦覧，説明会の開催等] --> B[評価書の作成等] C[意見を有する者，知事からの意見] --> B B --> D[評価書の補正] E[免許等大臣の意見 環境庁長官意見] --> D D --> F[公告・縦覧] F --> G[免許等] G --> H[事業の実施] I[事後調査の実施等] --> H </pre> <p>道路事業に係る環境影響評価の項目並びに，当該項目に係る調査，予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針，環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令（平成10年6月12日建設省令第10号）第6条に基づく環境要素。</p> <p>大気質 騒音振動 強風による風害 低周波 水質 底質 地形及び地質 地盤 土壌 日照障害 動物 植物 生態系 景観 触れ合い活動 廃棄物</p> <p>積算基準の適用範囲は，大気質，騒音振動の「既存資料調査」，「現地調査」である。</p> </div> | 追加 |